

調查月報

第十號 第五卷

昭和十九年十二月號

昭和十九年七月二十二日第三號發行
昭和十九年十二月二十五日發行

目次

編輯後記	主要日誌	雜錄	農村人口移動調查報告	資料
.....
180	181	186	1	

朝鮮總督府



内閣文庫
和書
一冊
八〇五二四号

調査月報 第十五卷 目次

資料

農村人口移動調査報告

資料

金融統計(七月中)……………財務局二六

朝鮮對内地貿易概算額表(十月中)……………財務局二〇

朝鮮簡易生命保險事業概況(七月中)……………逓信局二六

朝鮮關係雜誌重要記事調査(十月中)……………圖書館二七

主要日誌……………三九

編輯後記……………四〇

資料

221

38

農村人口移動調査報告

朝鮮總督官房調査課

一、まへがき

本報告は、次の如き調査要綱に依り昭和十九年二月中旬より三月下旬にかけて實施した全鮮六箇村落の實態調査に関する結果である。

本調査結果の眼目とする處は、第一に、戦後に於ける農村人口の社會的動感即ち移動現象を具に觀察し、第二に、その影響に依る農村人口の辭感即ち人口構成を明かにし、第三に、勞務給源の觀點から農家勞働力の變貌を判別して以て現下、喫緊なる農村對策に關する具體的な基礎資料を提供せんとするにある。

從來朝鮮に於てこの種調査の見るべきものが殆どなく、爲に農村構成の實質的性格に關しては常にその認識の重要性を痛感して居りながら、結局その實體を正確に把み得なかつた憾みなしとしない。

茲に敢へて一先づ之を公表し、朝鮮に於ける農村動感の一斑を知る爲の參考資料たらしめんとする次第である。尚、結果内容の説明に就ては後日幾分補足する心算である。

最後に、本調査の實施に當り公私共格別の御援助を添うした道、郡、邑、面の各職員及金融組合職員並に部落聯盟の各位に對し厚く感謝の意を表する。

二、調査要綱

一、調査の目的

本調査は朝鮮人口動感統計改善要綱に據り現下の時局に鑑み支那事變前後より現在に至る朝鮮農村人口の内地、滿洲、鮮内各地への移動状況を調査し人口分布の態様、農村人口構成の變貌、農業努力の變化、農村傾向の推移等を明かにし以て農家中堅人口の強化對策等に關する正確なる基礎資料を提供せんとするものである。

二、調査の方法

- (1) 主として標本大算調査法に依るも之を補ふに事例調査法を以てする。
- (2) 他計主義に依り専任調査員をして各世帯家族別に尋問聴取を行はしめ「農村人口移動調査票」に記入させる。

三、調査の客體

本調査の客體は農家人口の各個人なるも調査の單位は農家の一世帯とする。客體の範圍は調査期日現在の部落各戸の現在家族員（一時不在者を含む）及同居人並に昭和九年一月一日以降調査期日迄に轉出せる者及昭和十五年十月一日以後調査期日迄に死亡せる者とする。尙調査部落に於ける率家轉出入に關する調査は別途之を行ふものとする。

四、調査票の内容

別紙に表示した通りである。

五、調査の豫定地

(一) 調査すべき地域は純農村なることを要する外左の點を考慮して定める。

- 1. 農家計調査を施行する部落又は其の隣接部落なること
- 2. 百五十戸前後を有する部落なること
- 3. 調査部落と鐵道沿線間の交通著しく不便ならざること
- 4. 調査能力に關聯して定める

(二) 調査地として選定せるは左の五箇所である

- (イ) 京畿道平澤郡松炭面 長安里 二忠里
- (ロ) 全羅北道南原郡雲峰面 香亭里 山德里
- (ハ) 慶尙北道永川郡北安面 新里洞 道川洞 玉泉洞
- (ニ) 慶尙南道金海郡金海邑内洞里
- (ホ) 黃海道瑞興郡龍坪面月灘里
- (ヘ) 平安北道鐵城郡西面立石洞
- (ヘ) 咸鏡南道定平郡新上面 復興里 道興里



農村人口移動調査票

朝鮮總督官房調査課

I 現住世帯員ノ調査

調査員氏名	農家番號	調査票番號
昭和 年 月 日		

氏名	2世ノ世帯主ト柄	3男ノ女ノ別	4出生年月日	5配偶關係	6出生地	7教育程度	8現在ノ業務		9現在世帯員ニシテ通勤及季節的出稼ヲ行フ者				10現住世帯員ニシテ他出シテシヨトテト者				備考
							主トシテ全日ノ入メ	従タル全日ノ入メ	通勤者	季節的出稼者	他出期間	他出場所	他出期間	他出場所			

II 他出シテキル血族世帯員ノ調査

氏名	2世ノ世帯主ト柄	3男ノ女ノ別	4出生年月日	5教育程度	6他出金ノ住所		7他出ノ理由	8他出時ノ年齢	9他出後ノ年數	10他出後ノ職業		11就職ノ手筈	12最近一箇年ノ送還		備考		
					最初ノ住所	現在ノ住所				最初ノ職業	現在ノ職業		送還先方ヨリ	送還後方ヨリ			

III 血族世帯員ノ昭和十五年十月一日以降ノ死亡者

氏名	2世ノ世帯主ト柄	3男ノ女ノ別	4死亡年齢	5死亡ノ月

世帯ノ職業	本業	兼業
戸別税額		

種別	面積	耕作地	休耕地	山林	田	畑	園	池	川	路	其他

家畜	所有頭	借入頭
牛		
猪		
羊		
其他		

昨年農家經濟ノ収支ノ黒字字力赤字

農産物ノ生産額及販賣額

本世帯員中ヨリ他ヘ出稼シテ居ル者ノ日數及通勤出稼ノ日數

現在ノ労働力モツトテ幾何ノ經營面積ヲ適當ト考ヘラレル

裏面白紙

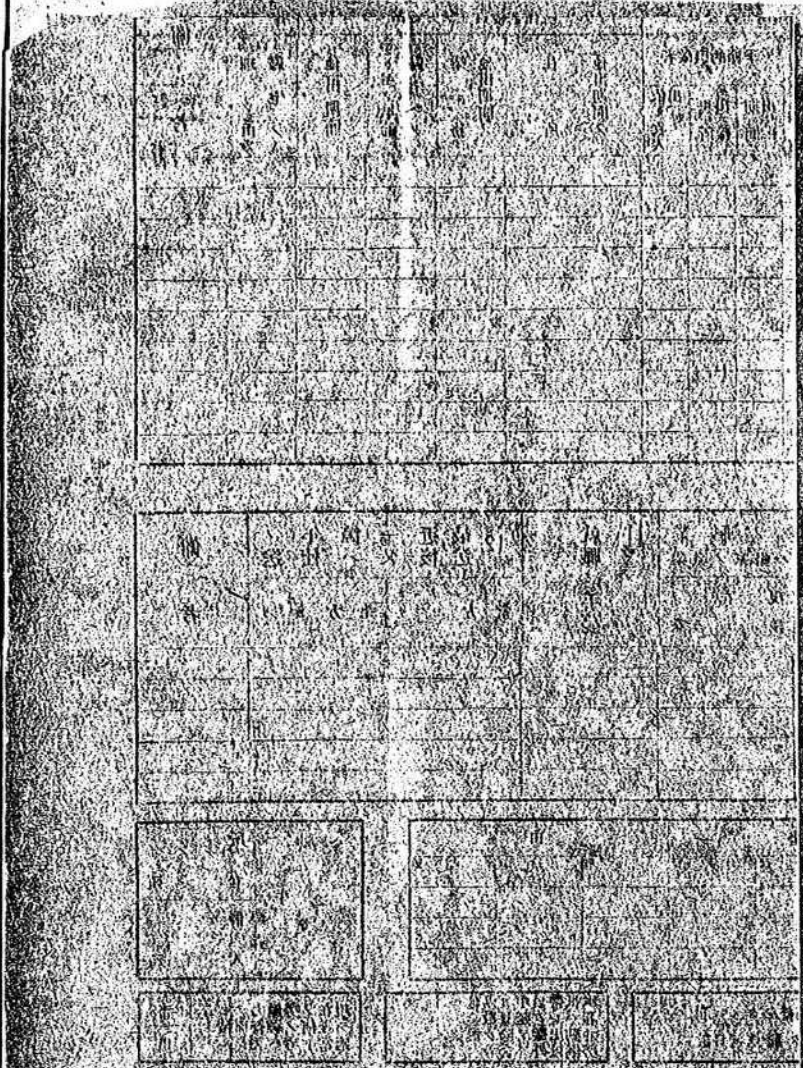
調査期間 昭和十九年三月十日 - 三月二十三日

班員 朝鮮總督府調査課 鈴木榮太郎

班長 京城帝國大學助教授 朝野野村府司

班員 京畿道通津郡通津面通津里 黃海通津郡通津面通津里 昭和三十九年三月二十六日 - 三月二十九日

班員 京畿道通津郡通津面通津里 昭和三十九年三月二十六日 - 三月二十九日



(4) 京畿道平澤郡松炭面 (長安里、二忠里)

班 長 京城帝國大學助教

朝鮮總督府囑託 伊藤俊夫

班 員 當課職員八名

調査期間 昭和十九年三月十日—三月十七日

(5) 全羅北道南原郡雲峰面 (杏亭里、山德里)

班 長 朝鮮總督府囑託 姜 誕 澤

班 員 當課職員七名

調査期間 昭和十九年三月十日—三月二十三日

三、調査部落の概況

京畿道平澤郡松炭面 (長安里、二忠里)

本調査の対象たる京畿道平澤郡松炭面の京畿道平澤郡の東北部に位し、北部は平澤郡北面、東部は安城郡元谷面、南部は平澤郡古徳面夫々相隣接し面内北部に佛岳山ある外若干の小丘あるのみにて地勢は概ね緩やかである。

本調査に選定せる部落は長安里、二忠里の二部落にして何れも本面の東部に位し面事務所の所在地西井里より二軒半以内の距離によつて比較的交通至便である、長安里部落は車氏、李氏を中心とする一聚落を形成し三百年以上の水田農家多く

部落の統制は極めて強力であるやうである。これに對し、二忠里部落は東嶺、石井、新里の三部落に分散し、それら、獨立の部落を構成し、三聚落間の距離は一軒除で、三聚落の中東嶺、石井の二聚落は桃農村に近きも新里は西井里に最も近く、その部落構成も長安里その他の聚落と異り、非農家の数が非常に多い。今調査戸数を部落別に示せば次の通りである。

調査地	調査總戸数	農家戸数	非農家戸数
長安里	八六	七四	一二
二忠里	四八	四一	七
東嶺	四三	三三	一〇
新里	二一	一八	三
石井	二二	八一	三一
西井里	二二	八一	三一
計	一九八	一五五	四三

次に昭和十八年現在に於ける調査部落の農家一戸當り畜面積並に田面積は何れも長安里の方が二忠里より大きく従つて農家の營農状態及生活状態は長安里の方が良好であるやうに認められた。

全羅北道南原郡雲峰面 杏亭里 山德里

一、本調査部落は南原郡より東方約二〇軒海拔七百米乃至千米の高原地帯に位する盆地形の山間部落である交通は自動車にて九十九折の峻険山路を往來する外、北に慶南咸陽、東に慶南山清に至る自動車道路を控へたるも概して不便である。山德里は雲峰面事務所より約二軒南方により杏亭里は山德里の西方約一、五軒の距離にある。

二、調査戸数は次の如くである。

調査地	調査總戸数	農家戸数	非農家戸数
杏亭里	六三	六〇	三
山德里	一三四	一一六	一八
元元	四一	三四	七
元元	三九	三八	一
元元	五四	四四	一〇
計	一九七	一七六	二一

三、農業は本部落が高原地帯の盆地内に存在し而も水利の便良好ならず地質も肥味乏しく十月初旬には早くも寒氣襲來して冬季長きため其の収益性は少いものゝ如くである。然し乍ら全羅道に於ける一般的現象として富農と貧農の農行分北は此處に於ても明白に見受けられた。

慶尙北道永川郡琴湖面 新月洞 元堤洞

一、最初の調査地は北安面道川洞玉泉洞なりしも出發直前、同地に傳染病發生し、交通遮断中との入電ありしため、調査地を俄かに琴湖面新月洞又元堤洞に変更した。

二、新月洞は大邱線琴湖驛より東北約四軒(面事務所所在地より約二軒、面事務所は驛と部落との略々中間にある)元堤洞は新月洞の東北約一、五軒の地點にあり元堤洞より山坂を越えて北方約六軒に永川邑を控へてをる。兩部落共北に山を負ひたる山添部落にして山畑と畜作をなす、近時山畑を開墾し林檎園として經營せるもの數戸を見るも純農村である。

三、調査戸数は左の通りである。

	調査総戸数	農家数	非農家数
新井洞	101	94	7
元堤洞	80	75	5
計	181	169	12

慶尚南道金海郡金海邑内洞里

一、調査部落たる内洞里は金海邑の市街中心地帯（邑事務所所在地）より北西約二軒餘の距離にあり背面に標高四百米の慶雲山を頂き前面は邑中心地帯との間を洛東江の支流たる葦蒲川神奈川に深はれ進永に至る自動車道路を擁して水利交通共に至便である。然し乍ら雨期に逢へば青田變じて忽ち泥濘と化する爲住民は屢々慘苦を嘗めるといふことである。

二、調査部落は二區に分たれ第一區は第一區より約一軒東南に位置する、兩部落共に略々同数の戸数を有する雑姓部落にして所謂地域的隣集團に屬する。而して自然的景觀の良好なること、水利、交通の至便なること等の環境の影響として人心醇朴にして素良、純農村の特徴が能く顯はれてゐた。

三、調査戸数は次の如くである。

	調査戸数	農家数	非農家数
内洞里一區	98	79	19
内洞里二區	95	80	15
計	193	159	34

四、農家の経営規模は極めて零細にして而も小作農が壓倒的に多いため一般的に生活程度は相當低く部落外轉出者も多数見られ非農家も大部分は零細小作農より轉化したものであるといはれる。農家は尙の二毛作を爲すを通常としてゐた。

慶尚南道金海郡金海邑外洞里二區

本部落は當初に於ては調査を豫定せざりしも調査時日に餘裕を生じたるに依り金海邑管内に於て生活程度最も低き部落を選び當該部落に於ける人口移動特に職業の爲にせる他出入口を調査せんとする目的を以て調査を施行したるものである。

二、本部落は内洞里の東南二軒、邑中心地帯より東に約一軒餘の距離にあり、自然的條件は内洞里と略々同様なるも、標高二〇〇米の臨虎山の直下に位置する山添部落である。調査戸数は八一戸にして生活程度は内洞里よりも邑内に近く所在するにも不物内洞里に比し稍々低きものと見受けられた。

黄海道瑞興郡龍坪面月灘里

一、調査部落は瑞興縣の北方約二軒乃至三軒（面事務所より一軒乃至二軒）の處に横在せる山添山間部落にして二區よりなる純田作地帯である。

水利灌漑の便不良にして土壤は何れも褐色を帯び一見して地味の瘠薄を思はせた。

二、舊洞里別戸数、耕地面積は左の通りである。

篤	洞	一九戸
齊	洞	二〇戸
内	洞	七戸
陽	洞	一戸
露	洞	一六戸
回	洞	一九戸
松	洞	三八戸
計		一三〇戸 (内非農家一九戸)

昭和十五年國勢調査の結果によれば一六八戸を算したるに本調査當時に於て右の如く一三〇戸となれるは鐵道工事終了の爲臨時に來住せる工員、雜役夫等の撤去せるに依る減少であつて當該部落定住者の移動ではない。

リ、調査部落中一區は鐵道路線の東側にあり、韓山李氏の同族部落であつて現宗孫牧山觀親氏より遷つて十二代の祖始めて當地に居を定め爾來四百餘年を閱し現住同族の血縁關係は二、三等親に至る迄稀薄して居つた。

ハ、調査部落中二區は鐵道線路を隔て、一區と反對側西北寄り位し凡そ十五姓氏を含む雜姓部落であつてその居住年代は關氏、韓山李氏の十代以上に互るものより二、三年に滿たざるものに至る迄その在住期間は區々である。

ニ、耕地の中の番の面積は定に徴々たるものに過ぎず田地と雖もその地質就不良なるのみならず地理上丘陵若くは山間傾斜面を占むるもの大半の状態である。

三、本部落民の生活程度を觀察するに農家としての經濟力は頗る貧弱にして剩へ副業の見るべきものなく僅かに雜穀類と

産牛とに依り副収入を得るに止まる實情なるを以て本調査部落の大部は所謂貧農に屬するといふことが出来る。従つてその文化程度も極めて低く比較的低下就學のもの多数に上る狀況である。經濟並に文化の兩面に於て既に如斯き状態にあるかを人心稍固陋にして偏狹、利に嗜き嫌があつた。

四、記 述

- 第一表 專業兼業別、自小作別、經營規模別、農家數及産業別非農家數
 - 第二表 現住世帯員の構成——性別、年齢別、教育程度別——
 - 第三表 移動形態より見たる他川家族員數
 - 第四表 收入階級別男女別年齢構成別他川家族員數
 - 第五表 世帯上の地位と經營規模より見たる他川家族員數——性別、年次別、年齢構成別——
 - 第六表 教育程度別他川家族員の川先職業と其の地域的分布
 - 第七表 川先地域別就職の手段より見たる他川家族員數
 - 第八表 農家經濟の收支狀態及家計補助の程度より見たる他川家族員數
 - 第九表 農家に於ける求職流出と農業勞力の變化
 - 第十表 他川せしことある者の他川中の職業期間及歸宅の理由より見たる現住家族員數
 - 第十一表 教育程度別年齢構成別、現住家族員中の通勤者及季節的出稼者數
- 第一表 專業兼業別自小作別經營規模別農家數及産業別非農家數
- 第一、本表作成の基準

一、農家、非農家別の区分は左に依る。

1. 農家とは農業を営む者ある世帯を謂ひ、農業を営む者とは耕種、養蠶、養畜の中一又は二以上を業とする者を指稱する。

2. 非農家とは農業を営む者なき世帯を謂ふ、耕種、養蠶、養畜に従事するも他人に雇傭せられて之を爲すものは非農家とする。

二、専業、兼業別農家の区分は左に依る。

1. 専業農家とは耕種、養蠶、養畜の中一又は二以上を経営しその収入のみに依つて生計を樹てる農家を謂ふ、但し耕牛を持たざるものに付ては九日以下の日傭を爲す者ある世帯も専業農家とする。

2. 兼業農家とは農業以外の他の産業又は賃労働による収入を合せ生計を樹てる農家を謂ふ、更に之を次の四種に分類する。

(1) 營農を主とし他の産業（小作料其の他の財産収入を含む）を従とする兼業農家

(2) 營農を主とし賃労働（職員勤務を含む）を従とする兼業農家

(3) 營農を従とし他の産業（小作料其の他の財産収入を含む）を主とする兼業農家

(4) 營農を従とし賃労働（職員勤務を含む）を主とする兼業農家

尚右の分類に就ては左の如き限定を爲した

イ、賃労働の中には所謂報國隊奉仕隊其の他之に類する事由に基く他出に因り勤勞する場合を含まない。

ロ、兼業農家四種の判定は収入の多寡に従つた。

三、自小作別農家の区分は左に依る。

1. 地主兼農とは貸付耕地一町歩以上の土地所有者たる農家を謂ふ。

2. 自作農とは經營耕地の九割以上を所有する農家を謂ふ。

3. 自作兼小作農とは經營耕地の五割以上九割未満を所有する農家を謂ふ、自作地と小作地の面積相等しくして自作番の面積小作番の面積に比し大なるか又は相等しき時は之を自作兼小作とする。

4. 小作兼自作農とは經營耕地の一割以上五割未満を所有する農家を謂ふ。

5. 小作農とは經營耕地の一割以下を所有するか全く耕地を所有せざる農家を謂ふ。

四、經營規模別農家の区分は左に依る。

五 反 未 滿 一町未滿

二 町 未 滿 三町未滿

四 町 未 滿 五町未滿

十 町 未 滿

五、非農家の区分は左に依る。

家計の主なる産業を左の如く十種に分類する。

(一) 森林業

(二) 木炭製造業

(三) 其の他の林産物生産採取業

- (四) 水産業
- (五) 工業
- (六) 商業
- (七) 交通業
- (八) 小作料其の他の財産収入

(九) 其の他の産業
イ、年雇、日傭、労働を業とするもの
ロ、其の他

第二、結果表の説明

一、總覽表

1. 調査せる五箇村落の總戸数は九八〇戸である、調査地は何れも純農村なるにも不純非農家一五四戸を算し總数の一五、七%を占める。

2. 農家数は八二六戸であつて、番作地帯七一五戸、田作地帯一一一戸である。

(イ) 番作地帯

(一) Ⅰ表に付て専業兼業別農家数を見るに、専業農家は三七八戸であり、兼業農家は三三七戸である、その全農家数七一五戸に對する割合は夫々五二、九%及四七、一%となり、略々相比例せる比例数を示すことは特に注意すべき點である。兼業農家に付て之を「營農を主とするもの」と「營農を従とするもの」とに分てば、營農を主とする兼業農家は二七四戸

であり、營農を従とする兼業農家は六三戸である、その兼業農家總數三三七戸に對する割合は夫々八、三%及一、八%となる、之に依れば營農を主としつゝ兼業に依り補ふことに藉つて生計を維持せんとするものが大多數を占めてゐることが分る。

更に營農の手段を見ると他の産業を兼ぬるもの五七戸、賃労働を兼ぬるもの二八〇戸にして、その兼業農家總數三三七戸に對する割合は夫々一六、九%及八三、一%となる賃労働兼業農家二八〇戸の農家總數七一五戸に對する割合は三九、二%である。

(二) Ⅰ表に付て自小作別農家数を見るに地主兼農一七戸、自作農六一戸、自作兼小作農七五戸、小作兼自作農一三五戸、小作農四二七戸の農家總數七一五戸に對する割合は夫々二、四%、八、五%、九、九%、一八、九%、五九、七%となり、此れに依り全農家八八、五%が小作と關係あり而も小作の程度が高くなるに從つて小作農家数も亦割合大となることが分る。

兼業農家中賃労働を兼ぬる小作農一八九戸の小作農總數四二七戸に對する割合は四四、三%にして自作の三二、八%、自作三〇、七%、小自作三四、八%より比率が高いのは賃労働の純小作農家に於ける生計補充的意義の大なることを示すものと言ふことが出来やう。

(三) Ⅰ表に於て耕地面積の廣狹別に農家を觀察すれば經營面積五段未滿一七七戸、一町未滿二七四戸、二町未滿二一八戸、三町未滿四二戸、三町以上四戸の農家總數七一五戸に對する割合は夫々二、四%、八、三%、三三、三%、三〇、五%、五、九%及〇、六%となり、一町未滿の農家は全農家の六三、一%に達する。

而して賃労働を兼業とする五反未滿の農家一〇一戸及一町未滿の農家一一〇戸の五反未滿の全農家一七七戸及一町未滿の全農家二七四戸に對する各々の割合は夫々五七、一%及四〇、一%にして一町歩以上の農家の當該比率二六、



一%より遙かに大である。

四 II表に於て經營規模を專業兼業別に見ると比率表(I)に示したやうに專業農家は規模割合に大きく兼業農家は比較的狭小である、殊に營農を従とする兼業農家は五反未満が七一、四%を占め之に一町未満を合算すれば九三、六%に達する而して專業農家約數三七八戸に對する小作專業農家二一八戸の割合は五七、七%なるに一町未満の專業農家一四九戸に對する一町未満の小作專業農家九八戸の割合は六五、八%にして五反未満の專業農家五七戸に對する五反未満の小作專業農家四〇戸の割合は七〇、二%となり規模の小なるに従ひその比率益々大となることが分る。

尙比率(II)表に於て專業農家及營農を主とする兼業農家に付自小作別に經營規模を見れば自小作農と小自作農の規模割合に大きく小作農は比較的小である。

(四) 田作地帯

本調査地に於ける農家の經營耕地は田面積七四、六四二一番坪面積三、六一七〇坪にして番は僅かに田の四、八%の微々たるものに過ぎないから本調査地は之を種田作地帯と謂ふことが出来る。

(一) I表を見るに地主兼農、自作農及自小作農の如き所謂自營農家の農家總數に對する割合は稍々大きい、之を番作地帯と比較すると次の通りである。

番作地帯	農家總數	地主兼農、自作農及自小作農の和とその農家總數に對する割合	地主兼農、自作農及自小作農の和とその農家總數に對する割合
田作地帯	七一五	七八	一〇、九%
田作地帯	一一一	二五	二二、〇%
			五三
			四八、〇%

やうになる。

番作地帯	農家總數	一町以上の農家數とその農家總數に對する割合	一町歩一町歩の農家數とその農家總數に對する割合	二町歩以上の農家數とその農家總數に對する割合
田作地帯	七一五	二六四	三六、九%	二一八
田作地帯	一一一	九五	八五、六%	七二
			六四、九%	二二
			二〇、七%	

3. 非農家數は一五四戸であつて番作地帯一三五戸田作地帯一九戸である。

(一) 各地帯別の比率は左の如くである。

田作地帯(瑞興)	農家總數	一町以上の農家數とその農家總數に對する割合	一町歩一町歩の農家數とその農家總數に對する割合	二町歩以上の農家數とその農家總數に對する割合
番作地帯	一三〇	一九	(一五)	一四、六%
田作地帯	八五〇	一三五	(八五)	一五、九%
田作地帯	一九八	四三	(二七)	二一、七%
田作地帯	一九七	一一	(三)	一〇、七%
田作地帯	一八一	一一	(六)	六、七%
田作地帯	一九三	三四	(二七)	一七、七%
田作地帯	八一	三五	(三三)	三〇、九%

右表中金外洞里並に平澤に於ける非農家の比率特に高きは金海外洞里は金海邑に近きたためであり、又平澤は二つの部落長安里二忠里に屬する一葉落新里が西井里驛に近距離に所在しているためであつてこの葉落を除くときは平澤の非農家の比率は一四、三%となる。



(二) 職業別に非農家の構成を見るに「其の他の産業」中、年雇及日傭労働に属するもの六四戸の非農家總數に一五四戸に對する割合は最も高く四一、六%を占め無業三一戸の二〇、一%工業一七戸の一、〇%商業一六戸の一〇、三%の順である、この中年雇日傭労働に属する非農家の當該地域に於ける非農家數に對する割合は次の通りである。

職業	非農家數	年雇日傭労働の非農家數	割合
平澤	四三	一六	三七、二%
南原	一一	八	三八、一%
永川	一一	六	五〇、〇%
金海	三四	七	五〇、〇%
海内洞里	二五	三	一二、〇%
金海洞里	一九	四	七三、七%

(三) 主なる職業に付その内容を例示すれば左の通りである。

1. 工業、精米所用機修理工、自轉車修繕、木工、土工靴直し、衣類仕立裁縫、草履製造業等
 2. 商業、牛肉小賣商、蠟切行商、賣藥、雜貨小賣商學用品販賣、布木行商酒類販賣等
 3. 交通業驛夫、機關區工夫、郵便配達夫等
 4. 小作料其の他の財産收入、地主
 5. 其の他の産業中「其の他」に属するもの面長、副面長、面書記、保線區備人、天主教會女中、給仕
 6. 無業、老幼病弱者のみの世帯、他地より轉入の日淺く調査當時無職中なりし世帯、婦女子一人のみの世帯
- 二、番作地帯個別表
1. 比率表(Ⅰ)に於て地域別に專業農家の當該地域農家に對する割合を見れば永川の五九、六%最も高く南原の五四、

第一、本表作成の基準

一、現住を世帯員の範圍は現住家族員(一時不在者を含む)及同居人である。

——性別、年齢別、教育程度別——

第二表 現住世帯員の構成

以上に依り一農家當りの經營規模は平澤が比較的廣く南原之に次ぎ金海外洞里が最も狭小であることが分るのである。

(1) 五反未満に付ては金海外洞里の各々の割合三二、〇%並に二六、七%金海内洞里の各々の割合二二、三%並に三一、七%が最も大なるものに屬し、平澤の各々の割合六、二%並一三、七%が最も低い。

(2) 併し乍ら一町歩以上のその各々の割合は右と反對に平澤の五八、七%並に四八、五%最も高く南原の四五、八%並に四六、八%之に亞ぎ金海外洞里の二八、〇%並に二四、四%が最も低い。

(3) 更に規模を大きくして二町歩以上のその各々の割合を見れば亦是(2)と同じく平澤の一五%並に一三、七%最も高く南原の六、二%並に八、二%之に亞ぎ金海外洞里の四、〇%並に二、二%が最も低い。

2. 比率表(Ⅱ)に於て地域別に經營規模より專業農家並に專業農家及營農を主とする兼業農家の和の當該部落農家に對する割合を見ると次のやうである。

(1) 五反未満に付ては金海外洞里の各々の割合三二、〇%並に二六、七%金海内洞里の各々の割合二二、三%並に三一、七%が最も大なるものに屬し、平澤の各々の割合六、二%並一三、七%が最も低い。

(2) 併し乍ら一町歩以上のその各々の割合は右と反對に平澤の五八、七%並に四八、五%最も高く南原の四五、八%並に四六、八%之に亞ぎ金海外洞里の二八、〇%並に二四、四%が最も低い。

(3) 更に規模を大きくして二町歩以上のその各々の割合を見れば亦是(2)と同じく平澤の一五%並に一三、七%最も高く南原の六、二%並に八、二%之に亞ぎ金海外洞里の四、〇%並に二、二%が最も低い。

1. 現住家族員とは現在の世帯主と同一戸籍内に現に在る者（在るべき者を含む）及曾つて在つた者にして現在生計を同じうする者及同じうすべき者を指す。
 2. 季節的に現住地を離れて職業に従事するが一定期間後には歸住する豫定の者、旅行中の者等は總て一時不在者として現住家族員の中に包含せしめてゐる。
 3. 同居人とは本来家族員ではなくて而も家族員と生計を同じうする者を謂ふ。同居人であつて調査部落内に別個の世帯を構へてゐる者も雇傭農家に常住する者は（年雇の如し）雇傭農家の現住世帯員中に加へてゐる。
- 二、年齢別構成に於ける年齢は數へ年である。この區分に就ては所謂生産年齢階層を一六一六〇歳迄とし之をば五歳階層別にして他は一五歳以下並に六一歳以上といふ風に一括して表影してゐる。

第二、結果表の説明

觀點を一戸當平均世帯員數、性比生産年齢層の割合及教育程度の四者とする。この中、生産年齢層に關しては之を廣く一六一六〇歳迄と狭く二一五〇歳迄の二通りに分けて考察することとする。

1. 農家

第Ⅳ表に示す如く五、七〇人である。

(一)、專業營業別

第Ⅳ表参照、專業農家は五、六七人であり兼業農家は五、七四人であつて、兼業農家が僅かながら多いのは南原及瑞興に於てその割合が專業農家に對し著しく大きいからである。

(二)、經營規模別

第Ⅳ表に依り、平均世帯員數は經營規模に全く比例してゐることが分る。五反未満と一町未満、一町未満と二町未満、二町未満と三町未満の各々の差は平均して一人であるから三町未満迄の農家に於ては規模別に見て順次一人位宛増大してゐるといふべきであらう。三町以上と三町未満の差は〇、四四人に止まる。

(三)、經營様式別

第Ⅳ表参照、地主兼農の七、八二人を最高とし自作の六、三六人、小自作の六、二人次に次ぎ、自作と小作は同じく五、三六人で最低である。大體に於て平均世帯員數の多寡と經營様式の自作化と比例するものといへやう。

(四)、地域別

第Ⅳ表参照、平澤の六、三九人が最も多く次が瑞興の六、〇七人であり南原の五、〇七人が最も少いが、概して南鮮地方は比較的に少いやうである。

2. 非農家

第Ⅳ表参照、非農家の一戸當平均世帯員數は甚だ少く三、七三人であつて農家の五、七〇人に比し、一九七人の差である。地域的には平澤が一番大きく永川が最も小さくなつてゐる。

3. 農家及非農家

これも第Ⅳ表に示してある通り、五、三九人である。地域的に見ると平澤の五、八八人が最大であり南原の五、〇七人が最小であつて一般的にいつて南鮮が割合に小さい。別に農家と非農家中年雇日傭労働を家計の主なる職業とするものとを合せた所謂廣義の農家に付、その平均世

帯員数を算出すると五、五六人となる。これは農家の五、七〇人より稍、小さく農家及非農家全体の五、三九人より稍、大きいものである。

二、性 比

1. 農 家

第I表に示す如く總數四七一人の中男二三三人、女二三七三人で男女の比は第II表に示すやうに女一〇〇人に對し男九八、五人で女が幾分多い。

(一) 專業兼業別

	專業農家	兼業農家
男	九三、五	一〇四、五
女	一〇〇、〇	一〇〇、〇

專業農家によつては第II表の如く男一二〇二人に對し女一二八六人であつてその比率は女一〇〇人とする時男九三、五人となり女が多いが、兼業農家によつては第II表の通り男一一三六人、女一〇八七人であつて女一〇〇人に對し男一〇四、五人となり逆に男が多い。

(二) 經營規模別

第II表に見られるやう、一町未満と二町未満の農家だけが僅かに一、五%位男子の多いことを示し他は何れも三一、一〇%位男子が少いことが分る。

(三) 經營様式別

女一〇〇人に對し地主兼農の男一一、八人が最高で小作、小自作之に亞ぎ自作の男八八、八人が最低である。(第II表参照)

(四) 地 域 別

第II表に依り永川と金海(内洞里と外洞里二區とを合算す以下同じ)だけが僅かに男子超過の構成を示し他は何れも女子超過の構成であることが分る。特に平澤は男八九、七人で相當低率であることが目立つ。

2. 非 農 家

第IV表参照、總數五七四人(農家人口の二、二%に相當する)中男二五八人、女三一六人で女一〇〇人に付男八一、六人の割合で前記農家に於ける男子人口のそれよりも更に低率である。

地域別に見て(第II表参照)男子人口が女子人口を超えてゐるのは一個所もなく就中南原の六八、七人、金海の七、七人は著しく少い。

3. 農家及非農家

第V表参照、總數五二八五人、男二五九六人、女二六八九人で女一〇〇人に付男九六、五人の割合である。

三、生産年齢層の割合

1. 農家(第I表)

階 級 別	總 數	五反未満	一町未満	二町未満	三町未満	三町以上
一六一六〇	四、六%	四、七%	四、七%	四、五%	五、五%	四、四%

(イ) 男子の割合

階 級 別	總 數	五反未満	一町未満	二町未満	三町未満	三町以上
一六一六〇	四、六%	四、七%	四、七%	四、五%	五、五%	四、四%

右に於て割合の一番多いのは兩階層共に三町未満即ち二町以上の農家であつて夫々五三・五%と三四・四%であり、その最少なのは三町以上の割合を除くと五反未満の農家であつてその間經營規模が小さくなるにつれて兩階層共その割合も亦少くなつてゐる。

(四) 女子の割合

階層別 總 數 五反未満 一町未満 二町未満 三町未満 三町以上

二一五〇	三二一	三三六	三〇七	三三八	三〇四	三三〇
一六一六〇	五二二%	五〇五	五〇八	五〇八	四九一	四九六
二一五〇	三三・四	三六・二	三六・四	三九・九	三九・六	三九・七

女子の場合には生産年齢の範圍に從ひ經營規模別の割合も違つて來て男子のやうに一様ではない。即ち先づ一六一六〇歳階層に於ては三町以上の割合を除いていふと、二町以上の農家だけが突飛に高くなつてゐて五四・一%を示し他は相當下つて大同小異である。次に二一五〇歳の階層に於ては五反未満の農家が最高の割合で三八・二%を示し以下規模が大になる程比率が少なくなつてゐて、割合の増減の傾向が一六一六〇歳階層と反對である。これを男子と比較すると、總數に於て兩階層共に約三四%位女子の割合が高くなつてゐり、經營規模別に見て一六一六〇歳階層に於ては男女共に五反未満を最低として増大の傾向を示してゐるが、二一五〇歳階層に於ては兩者その傾向を全く逆にすること及更に年齢別に於て五反未満を除き四一―四五歳階層に屬する男子の割合が比較的低いこと等が目につく。尙三町以上の農家は男女共に三町以下に付て見られる傾向から逸脱して合律的でない。

(一) 專業農家(第I表)

(イ) 男子の割合

總 數 五反未満 一町未満 二町未満 三町未満 三町以上

一六一六〇	四八・八%	四九五	四九三	四八八	四九一	四九〇
二一五〇	三〇・八	三三八	三九八	三九四	三九八	三九〇

これに依ると、二一五〇歳階層に於て五反未満の農家の割合は著しく低い。

(ロ) 女子の割合

總 數 五反未満 一町未満 二町未満 三町未満 三町以上

一六一六〇	四九・九%	四九九	四八一	四九八	五〇〇	四九二
二一五〇	三三・八	三六〇	三五三	三三二	三三七	三六六

これに依れば二一五〇歳階層に於て五反未満の農家の割合は他に比して格段に高く三八・〇%になつてゐり、この點男子の場合と全然對照的である。

(二) 兼業農家(第II表)

(イ) 男子の割合

總 數 五反未満 一町未満 二町未満 三町未満 三町以上

一六一六〇	四九・五%	四九六	四八一	四九八	五〇八	四九七
二一五〇	三二・四	三九六	三九六	三九四	三九七	三九一

これを專業農家に於ける男子と比較すると、この方が總數から見ても經營規模別に見ても兩階層共に多少高い割合



を示し特に三町未満の農家によつては殆ど六%以上の高率を占めてゐる。
何、女子の割合

総	数	五反未満	一町未満	二町未満	三町未満	三町以上
一六、六〇	三、三%	五、八	五、七	五、八	五、一	五、一
二一、五〇	三、二	五、三	五、四	五、八	五、四	五、六

この場合によつても亦専業農家に比較して總體的に各階層共に相當高い比率を示してゐる。

2. 非農家(第V表)

男	一六、六〇	二一、五〇
女	五〇、四%	三三、七
	五一、五	三三、七

これを農家に比較すると男にあつては各階層共に約二%、女によつては一六、六〇歳階層は殆ど差異が認められな
いけれども二一、五〇歳階層に於ては矢張り二%程度非農家が多い。

尚、非農家中、年展、日傭労働を家計の主なる職業とする世帯の構成員数を抽出すると附表に示したやうにな
る。總數二三七人であり非農家現任世帯員總數の四一、三%に當る。その生産年齢層の占める男女各別の割合は左
の如くである。

男	一六、六〇	二一、五〇
女	五三、五%	三四、四

即ち、上記非農家全體のそれよりも女子の二一、五〇歳階層を除き全部高率を示し農家の當該比率よりは全般的に
高い。

3. 農家及非農家(第V表)

男	一六、六〇	二一、五〇
女	四八、八%	三一、四
	五一、二	三五、七

4. 以上述べた所を綜合すれば、生産年齢階層に屬する世帯員の割合は男女共に農家よりも非農家が多く、非農家の
中でも年展日傭労働を家計の主なる職業とするものの方が特に多い。

農家に於ては男子世帯員の場合一般に經營規模の大小とその割合の多少とが比例し、又専業農家が兼業農家よりも
男女共に低率であつて特に専業農家の二一、五〇歳階層の男子の比率の低いのが目立つてゐる。
最後に廣義の農業人口といふ意味に於て第I表と附表から兩者を合算した各生産年齢層の割合を計算すると左の如
くである。

男	16 60	四八、八%
	21 50	三一、二
女	16 60	五一、三%
	21 50	三五、四

四、教育程度(第K表)

1. 農家

(イ) 男女別に就學率を見ると次のやうである。男女何れも極めて低い。

	就學率	初等在學中の者	初等卒業者	中等就學者
男	三三、八%	一一、二%	八、三%	一、一%
女	七、九%	五、九%	一、二%	〇、二%

即ち就學者の割合は男二二、八%の中、初等程度以上の者が九、四%に過ぎず、女七、九%の中、初等程度以上の者が僅かに一、四%を占めるといふ微々たる状態である。

(ロ) 生産年齢層の就學率は一人前の働きの出来る農耕者の教育程度を知る上に重要であるが、左に示す通り寔に僅小なものである。

	二一五〇歳階層の就學率
男	一九% (内初等程度以上は一六、二%)
女	一、一% (内初等程度以上は〇、八%)

	就學率	初等程度以上
男	三三、九%	一一、二%
女	六、一%	一、九%

農家に比して殆ど同程度である。

併し乍ら、左の如く男子の二一五〇歳階層の就學率に於て農家よりも多少高きを示してゐるのは恐らく非農家の世帯員の中職員勤務に該るもの、存在することに由るのであらう。

	二一五〇歳階層の就學率
男	二六、四% (内初等程度以上は二四、一%)
女	二、五% (内初等程度以上は一、七%)

第三表 移動形態より見たる他出家族員数

第一、本表作成の基準

- 一、茲に他出とは左の場合を意味する。
1. 家族員が職業又婚姻及縁組の爲に現任地を離れたこと
 2. 調査部落内の他家に在るか(例へば年雇の如き者が調査部落内の他家に住込雇傭せられたるが如し)この場合農村全體の立場から觀察する時は他出とならず、農家の個別的見地からは他出と見做される調査部落外に在るが(例へば他地に於て常時勤務し又は他地に嫁いでゆきたるが如し)の何れかであること
 3. 他出年次は最近十年以内(昭和九年一月一日以降)であること
- 二、移動形態は之を分けて三つとする。
1. 求職流出
 2. 婚姻及縁組流出
 3. 從屬流出
- 從屬流出とは家族員の求職又は婚姻及縁組の爲にする流出に從屬してその配偶者又は其の他の家族員(恐らく子供に該ることが多いであらう)が他出した場合をいふ。流出者が他出後その出先で配偶者を得又は子女を得た場合これら

の者は之に含まれないこと勿論である。
三、年齢は数へ年である。

第二、結果表の説明

一、求職流出

1. 総数(第I表参照)

三二六人中、男が大部分で三〇一人であり女は僅かに一五人に過ぎない。男に付各年齢階層別に全體(三〇二)人に對する割合を大小順に見ると左の如くである。

二二二五	二六二三〇	一六一二〇	三一三三五	三六一四〇	四一四四五
二七、九%	二六、二	一八、三	八、六	七、六	五、六

即ち二二二五歳階層が最も多く二二一三〇歳迄の内全體の過半数を占めてゐる。一六一二〇歳階層も一八、三%を示し相當高い。
女にあつては一五歳以下が三人、一六一二〇歳階層で七人を示し、これで女全體(一五人)の三分の二である。
尙一六十四五歳迄の男現住世帯員数は九二二人であり同じ年齢階層の流出人口は二八四人であるから、現住人口一〇〇人に對し三〇、八人の流出になる譯である。

2. 農家(第II表参照)

農家の求職流出人口は二六三人で流出人口總数三二六人の八三、二%を占める。この中男は二四八人、女は一五人を數へ農家流出人口二六三人に對する割合は男九四、三%女五、七%である。更に男の流出人口總数三二六人に對

する割合は七八、五%となる。

男に付各年齢階層別に全體(二四八人)に對する比率を大小順に見ると左の如くである。

二六一三〇	二二二二五	一六一二〇	三一三三五	三六一四〇	四一四四五
二七、〇%	二六、二	二二、八	八、九	六、九	四、八

右に依れば、二六二三〇歳階層が最も多く、二二一三〇歳階層で全體の過半数である。一六一二〇歳階層も二二、八%で全體の五分の一以上を占める。
農家の男子一六十四五歳迄の現住世帯員数は八二八人であり同年齢階層の流出人口は二二七人であるから、現住人口一〇〇人に付二八、六人の流出割合になる。

3. 非農家(第III表参照)

非農家に於ては五三人を示しこれは流出人口總数(三二六人)の一六、八%に當る。而して求職流出は男子のみに見られ女子は一人もない。

年齢階層別に見た割合は農家と同様二二一三〇歳階層に於て非農家全體の過半数五八、五%を占めてゐる。併し乍ら一六一二〇歳階層に於ては農家と全く異つて殆んど流出がない。

又非農家現住人口の中、男子の一六十四五歳迄の世帯員数は九四人であり同年齢階層の流出人口は四七人であつて現住人口一〇〇人に付五〇人もの流出割合を示してゐるのは農家に比べて甚だ顯著である。これ非農家の一戸當平均世帯員数が農家よりも著しく少かつた所以であらう。

二、婚姻及縁組流出

1. 總數三八五人（第I表参照）の中、女子三七六人で男子九人である。この男子九人は云ふ迄もなく縁組であつて第II表に示すやう全部が農家に於けるものである。

2. 婚姻及縁組流出に關しては、婚嫁姻家の（職業配偶者の職業）及初婚年齢等が重要であるが、前二者に就ては姑く論及せずその詳論を後日に譲り、後者に就ては本調査と併行實施した農村出産力調査に於て表彰する初婚年齢に依りその説明を代へることとする。

三、從屬流出

1. 總數（第I表参照）

五八人中、配偶者三人、其の他の家族員二七人である。これらは全部が求職流出に從屬せる者である。

2. 配偶者

配偶者は總て女子である。この從屬流出配偶者が三人あるといふことは、後述其の他の家族員に關する事實を併せ考へる時、男子求職流出人口三〇一人の中で、三人だけが流出をなすに當り同時に實質上分家の形式を取つたものであると思料すべきである。さうだとするとかゝる分家の形式を持つ流出形態は一〇%だといふことが出来る。そしてこれを農家に付て見れば一、三%であるが、非農家では五、六%に過ぎない。非農家中、女一人のみの世帯があつた所以である。

從屬流出せる配偶者の年齢分布は農家非農家を通じて二一―二五歳階層が最も多く全體として總數の三分の一であり、次が二六―三〇歳階層であつて前者と合して總數の過半数を占める。

3. 其の他の家族員

其の他の家族員二七人の年齢分布を第I表に付て見ると凡て三〇歳以下である。就中一五歳以下が八一、四%であり二〇歳以下では九二、六%となる。このことは、其の他の家族員が殆ど求職流出者の子女である、ことを示すものである。

尚、この總數二七人が配偶者の總數三人にも及ばぬのは流出當時夫婦のみにて他出する場合の多いことを意味する。

第三、特殊移動形態

本調査に於て以上觀察して移動形態の外に本表に包含されてゐないもので尚一つ注意すべき移動現象がある。

それは、全南の南原に於て見受けられたことであるが、家族員が食糧難を理由に自宅を離れて調査部落外に他出し諸處を轉々とするといふのである。

總數三四人の中、男二五人、女九人であつて

一、それらの者の世帯上の地位は、男二五人によつては世帯主及長男が一五人を占め。

二、出先職業は概ね不明であり。

三、出先地域は、調査部落所在の郡面と隣接した他の郡面であるが、それも具體的には不明なものが大部分である。勿論、以上の者は何時歸村するとも判明せず、結局いはゞ音信不通の状態にあつて、親の供出後頻りに生起する特殊な流出現象である如くである。

更に、個々の家族員に限定せず一家全戸移動の場合もあるのであるが、これは第九表の別表に於て説明するつもりである。

第四表 収入階層別、男女別、年齢構成別他出家族員数
第一、本表作成の基準

- 一、収入階層は各調査地域を管轄する邑面事務所て書寫した各調査世帯の納入する昭和十八年分戸別税額を標準として、左の如く四種に區分した。
- 1. 戸別税を納めるもの
これは更に地域別に各々三つに分ち、比額の多いものを甲とし、少いものを丙とし、中間を乙とした。
- 2. 戸別税を納めぬもの
これは一括して丁とした。
- 二、年齢は数へ年である。
- 三、他出家族員は求職流出に依るもののみである。

第二、結果表の説明

一、農家非農家別

農家非農家別に各収入階層に所屬する他出家族員の割合を計算すると左の如くである。

階層	収入階層別			
	甲	乙	丙	丁
農家	三、八%	一四、二%	四〇、五%	四一、五%
非農家	四、六%	一六、三%	四六、四%	三二、七%
總数	一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇

即ち、他出家族員全體の中で丁の階層に屬する者が最も多く四一、五%を占め、次が丙の階層に屬する四〇、五%であつて、乙は非常に下つて甲に至ると僅り三、八%に過ぎない。これを農家に付て見ると丙の階層が一番多く四六、四%であり丁は稍々少く三二、七%、乙甲の順に著しく低下を見せてゐる。

非農家に於ては丁の階層が殆ど大部分を占め八四、七%を示し次の丙階層は遙に下つて一一、三%に止まり乙は擧げるに足らず甲は皆無である。

要するに丙といひ丁といひ収入の少い階層から流出した者が大部分であつて、流出量と収入の多寡とは逆比の關係にあるといへる。

二、男女別及年齢階層別

男に付て觀察すれば總數三〇一人の中、丙及丁の階層に屬する者は二四八人であつて八二、四%となる。この二四八人の中で一六一四五歳階層に在る者は二三三人であり總數三〇一人の七七、四%に該る。

女に於ては甲の階層に屬する者は一人もなく丙及丁に屬する者一人で總數一五人の七三、三%を占め、その大部分が矢張り三〇歳以下である。

第五表 世帯上の地位と經營規模より見たる他出家族員数

性別 年次別、年齢構成別

第一、本表の作成基準

- 一、世帯上の地位は、調査世帯に於ける家計の主たる擔當者を主人とし、これを中心とする續柄に依つて區分した。そして單に性別に基き呼稱の相違を示すに過ぎぬもの及配偶者は、之を同地位に並列した。但し長男は長男の妻と之を

同列に置き、長女は二男以下と同列に置いてある。
 二、他出年次別は最近十箇年（但し昭和十九年は調査期間迄を含む）である。即ち昭和九年一月一日より昭和十九年三月中旬に亘る。
 三、年齢は数へ年である。
 四、他出家族員は求職流出に依る者のみである。

第二、結果表の説明

一、男子に付、他出家族員の現住世帯員に對する割合を示すと左の通りである。（付表）

1. 農家

男子現住人口	他出家族員數	他出家族員數の總數に對する割合
總數	二四八	一〇、六%
五反未滿	六三	一六、七
一町未滿	七六	一〇、二
二町未滿	八三	一〇、二
三町未滿	一七	五、九
三町以上	七	七、二

これに依ると經營規模の最小である五反未滿の農家が最高の割合一六、七%を示し、次は一町未滿と二町未滿が同じく、三町以上を除いていへば最後が三町未滿の農家となる。

2. 非農家

非農家の男子現住人口は二五八人であるからその他出家族員五三人のこれに對する割合は二〇、五%となつて農家の場合の一〇、六%よりも遙かに多い。

二、男子流出人口に付、世帯上の地位から見た構成比率を計算すると次のやうである。（付表）

1. 農家

世帯上の地位	總數	主人	弟	長男	次男以下	其の他
割合	一〇〇	一一、五%	一四、一	三六、三	三二、三	四、八
二町以上	一〇〇	—	—	—	—	—
二町未滿	一〇〇	—	—	—	—	—
一町未滿	一〇〇	—	—	—	—	—
五反未滿	一〇〇	—	—	—	—	—

主人の割合
 長男の割合
 其の他

經營規模の小なる程各規模別の流出人口の中、主人及長男の占める割合は益々大となること分る。一町以上では主人の割合は些少であるのに、一町未滿以下では相當の比率を示して長男と合して全體の半分若くは過半数に上る

2) 非農家

主人の非農家總數に對する割合は二〇、八%であり長男のそれは四五、三%であつて農家全體に於けるよりも各高
 三、農家非農家を合せた求職流出總人口三一六人に就て昭和九年以降毎年の増加傾向を觀察すると、別に累年増加とい
 つたやうな形跡は見受けられないのであるが、(同表参照)今假りに、これを三分して九年十二年迄の四箇年を支
 那事變以前と考へ之を第一期とし、十三年十六年迄の四箇年を支那事變發生後大東亞戰爭勃發前として之を第二期
 とし、最後に十七年以降調査時期迄を大東亞戰爭開始後として之を第三期と考へると、この間に於ける流出状態は一
 つの傾向を示してゐるといへやう。即ち、第一期の流出人口は五七人で全體の一八%に過ぎないが、第二期は一四〇
 人で四、三%と激増してゐる。そして第三期は一九人で三、七%を示し第二期に比し六、六%少いけれども、第
 三期は區切りが十七、十八年の二年と十九年の初期を加へた、前二期よりも短い年月である上に、恰も十八年が五
 人で年次別の最多であり、十九年が初期で三二人も占めてゐること、併せ考へると、畢竟、流出人口は相當の比率を
 以て増加する傾向にあるといひ得るもの如くである。

四、男子流出人口には、一六―四五歳階層に於ける流出數の、同じ階層に屬する現住人口に對する割合を算定すると、
 次の如くなる。

先づ農家に就て經營規模別に見る。(第二及三表並に本表中(同表参照))

總數	現住人口總數	流出人口	割合
八二八	一六四五	二四八	二八、六%

五反未滿	一〇八	五八	五三、七
一町未滿	二七三	七四	二七、一
二町未滿	二九六	八一	二七、四
三町未滿	一一六	一七	一四、七
三町以上	三五	七	二〇、〇

五反未滿が最高で五三、七%を占め一町未滿及二町未滿は略々同じ割合であるが急落して二七%弱を示す。三町以上を除きこの割合は大體經營規模に比例すること前記一般の場合(本稿一、の1.参照)と同様であり一町未滿以上と五反未滿との差がより著しくなつてゐるだけである。

次に、非農家に就ては既に第三表に於て五〇%なることが計算されてゐる。

第六表 教育程度別他出家族員の出先職業と其の地域的分布

第一、本表作成の基準

- 一、教育程度はこれを次の如く三つに區分した。
- 1. 不就學
- 2. 國民學校中退
- 3. 國民學校卒業以上
- 二、出先職業は類型に従はず調査票記載のまゝを列擧した。不詳を除いて總數二六種である。
- 三、地域的分布は左の四つに區分した。
- 1. 朝鮮内

- 2. 内地
 - 3. 滿支
 - 4. 南洋
- 四、他出家族員は求職流出に依るもののみである。

第二、結果表の説明

一、教育程度

1. 農家(第I表)

男子他出家族員二四八人(第三表参照)の教育程度は國民學校中退一三人、同卒業以上八九人計一〇二人であつてその割合は左の如くである。

就學率	内初等卒以上
四一、一%	三五、九
而して前述第二表による男子現住世帯員の教育程度は次の如くであつた。	内初等卒以上
就學率	九、四 (男子全世帯員に於ける割合)
二二、八%	一六、二 (二一五〇歳階層に於ける割合)
一九、〇	一八、八 (二六歳以上に於ける割合)
一九、二	

即ち、他出家族員の教育程度は現住世帯員に比較して相當高いことが明白である。

- 2. 女子他出家族員一五人の教育程度は僅かに國民學校中退者が二人あるだけである。
- 2. 非農家(第II表)

非農家の他出家族員五三人は全部男子である。(第三表)

就學率	内初等卒以上
二五、九%	二二、六
これを第二表に依る男子現住世帯員の教育程度と比較すると	内初等卒以上
就學率	一一、二 (男子全世帯員に於ける割合)
二二、九	二四、一 (二一五〇歳階層に於ける割合)
二六、四	

となつて非農家の場合は、農家に於ける程顯著ではないが他出家族員の教育程度が若干高いといふことが出来る。

二、出先職業

1. 農家(第I表)

農家の男子他出家族員二四八人の職業はその不詳なる者一九人を除き二二九人に付二六種に分散してゐる。

(一)、分散せる職業中主なるもの不詳を除く二二九人に對する割合は

土木労働	職工	炭坑夫	年雇	會社員	大工	農	業
三三、三%	一四、八	一三、六	七、九	五、七	三、九	三、九	

となり、土木労働が壓倒的に多く、これは炭坑夫年雇を加へたる所謂重筋肉體的勞務を主とする仕事に携るもの

が五三、八%を占めてゐる。
(二)この分散せる職業を六大群に類別して移動後の出先に於ける社會的地位を觀察すると略々次の如くいひ得るであらう。

(イ) 農業者	三一人	農業者 九人
(ロ) 商業者	一四人	小賣商 3 旅行商 2 居酒屋 7
(ハ) 銀行會社員及 其他の事務者	一五人	組合書記 2 會社員 13
(ニ) 工員及其 他の勞務者	一五四	大工 9 職工 34 店員 6 巡査 1 郵便 1 官書 3 面書 3
(ホ) 公務員	九	捕房監視 1 軍馬 1 官車 3
(ヘ) 其他	六	病院助手 1 牛車夫 1 土木建築 1 漁夫 2
		炭坑夫 31 土木勞働 74

以上を通じて見るとき、地主又はその他の財産収入者若くは共同經營事業體首腦者は一人もなく、只個人經營事業主とでもいつたやうな者が若干あるに過ぎぬ。大部分は(ニ)工員及其他の勞務者であり總數二二九人中六七、二%を占めてゐる。

農業關係にまつては(イ)農業者の一三、五%に過ぎず八六、五%が農業關係外の流出である。

頭腦的職業としては(ハ)銀行會社員及其他の事務者一五人と(ホ)公務員の九人が數へられるが兩者合して全體の一〇、五%を超えない。

農家の女子他家族員一五人の職業は左の如くであつて雇女が大部分である。

雇女(酌婦一人を含む)	一〇人
女	四人
不明	一人

2. 非農家(第II表)

非農家總數五三人の中、不詳一〇人を除く四三人に於ける職業分散は二種であり、土木勞働三四、八%、職工一八、六%、炭坑夫及年雇は夫々九、三%がその主なるものであるが、大體農家の場合と職種並に割合の多少が酷似してゐる。

社會的地位より見れば、是亦農家と同じく工員及其他の勞務者に屬する者が最も多く大工一人、炭坑夫四人、店員一人、職工八人、土木勞働一五人計二十九人で全體の六七、四%を占める。農業關係は年雇四人、日雇一人、農業二人計七人で一六、三%である。

三、出先職業と教育程度

1. 農家(第I表)

農家に於ける職業分明なる男子他出家族員二九人の中、國民學校中退は二人(總數欄一五人より女子の四人を除いて)であり、國民學校卒業以上は八二人(總數欄八九人より職業不詳七人を除いて)であつて計九三人が就學者である。従つて就學率は四〇、六%となり内國民學校卒業以上の者の割合は、三五、八%である。主なる職業に付國民學校卒業以上の者の割合を見ると次の如くである。

土木労働	職工	炭坑夫	年雇	會社員	大工	農	業
一七、五%	五〇、〇	九、七	二二、二	一〇〇、〇	五五、六	一一、一	
(イ) 農業者							二二、六%
(ロ) 商業者							二八、六
(ハ) 銀行會社員及其他の事務者							一〇〇、〇
(ニ) 工員及その他の勞務者							二八、六
(ホ) 公務員							一〇〇、〇
(ヘ) その他							五〇、〇

會社員、大工、職工は優秀であるが、他は取るに足らない。前記社會的地位別に見た國民學校卒業以上の者の割合は、

の如くであつて、頭腦的職業に従事する(イ)及(ロ)に於ては一〇〇%の比率を示すけれども(ハ)を除き其の他のものにあつては割合が著しく低く、殊に農業者が最も低率である。

2. 非農家(第II表)

非農家の職業分明なる男子他出家族員四三人の中、國民學校中退二人、同卒業以上九人(總數欄一二人より職業不詳三人を除く)計一人が就學者であるから、その比率は二五、六%に過ぎない。主なる職業中の國民學校卒業以上の者の割合は、土木労働一三、三%、職工五〇、〇%などであり一般に農家に比して低率である。尙、工員及その他の勞務者に屬する者二九人中の當該割合は七人の二四、一%で農家に劣る。其の他にあつては取立てて云ふべき點がない。

四、地域的分布

他出家族員總數三二六人の出先は左の割合である。(第III表)

朝鮮内	内地	滿洲	支那	南洋
五〇、三%	三九、九	七、九	一、九	
朝鮮内	内地	滿洲	支那	南洋
一五九	一二六	二五	六	
國民學校卒業者	五六	三一	一一	
合	三五、二%	二四、六	四四、〇	五〇、〇

半分は朝鮮内であり五分の二位が内地である。之を教育程度別に見ると各地域に於ける國民學校卒業者の當該地域の他出家族員總數に對して占める割合は

のやうになり、内地に向く者の教育程度は他に比して幾分低いことが分る。以上諸點を農家、非農家別に觀察すると次の如くである。

1. 農家	朝鮮内	内地	滿支	南洋
他田割合	五一、〇%	四〇、三	七、六	一、一
国民學校卒業以上者の割合	三八、一	二六、四	四〇、〇	六六、七
2. 非農家				
他田割合	四七、二	三七、七	九、四	五、七
国民學校卒業以上者の割合	二〇、〇	一五、〇	六〇、〇	三三、三

農家にあつては朝鮮内に留まる者と内地に行く者とは教育程度の開きが非農家に於けるよりも著しい。

五、出先と職業

1. 農家 (第Ⅴ表参照)

農家の男子他出家族員三二九人(不詳を除く)に付、地域別に出生に於ける主要なる職業の分散状態を見ると次のやうである。

朝鮮内	内地	滿支	南洋
總數	八三人	二七人	一七
土木勞働	二七人	一七	一六
職工	一七	一	一
炭坑夫	一	一	一
年雇	一	一	一
會社員	一	一	一
大工	一	一	一
農業	一	一	一

總數一八八人に對し内地は九二人を占め四八、九%で首位であり、朝鮮は八三人の四四、一%でこれより稍々少く滿支は急落して五、九%である。

これを職業別にみると、土木勞働は五四、一%、炭坑夫は九三、五%、職工は五〇、〇%が夫々内地方面に分布してゐることが際立つてゐる。

更に、これを前記六大群に類別すると、

朝鮮内	内地	滿支	南洋	計
總數	一一二人	九九	一六	二二九
(イ)群	三三	五	三	三二
(ロ)群	一一	一	一	一三
(ハ)群	一三	一	一	一五
(ニ)群	五四	八九	九	一五二
(ホ)群	七	一	一	九
(ヘ)群	四	二	二	六

の如くなるのであるが、就中、(イ)群の工具及其他の勞務者に於て内地方面が五七、八%を占めて斷然他を壓し、朝鮮の三五%及滿支の五、八%を遙かに抜いてゐるのは注意すべき點である。

3. 非農家 (第Ⅴ表)

非農家に付ては、工具及其他の勞務者二九人の地域的分布に於て朝鮮は一〇人の三四、五%滿洲は二人の六、九



%となつてゐるに對し、内地は一、七人の五八、六%を占めて農家の場合と同様極めて高率であるといふことを留意すれば足りる。

第七表 出先地域別、就職の手筈より見たる他出家族員數

第一、本表作成の基準

求職流出に於ける就職の手筈は、他出時を標準としこれを左の如く五つに區分した。

1. 勧誘—縁故知人其他私的個人關係にある者の媒介、斡旋、依頼等に依る場合
2. 募集—職業紹介所其他の職業機關の募集に應じた場合
3. 面談—面事務所の周旋に依る場合
4. 報國隊—奉仕隊、仕奉除其の他にこれに類する凡ての場合を含む。
5. 無—他出時に手筈の全然存在せぬ場合であつて漫然職を求めて他出した一切の場合を指稱する。

第二、結果表の説明

一、總數三、一六人中

1. 手筈の有無の割合は

有	一七人	三七%
無	一九九人	六三%

であつて無いものが大多數である。

2. 有るもの一七人は、その内譯を

官に依るもの、面談 二
報國隊一九 二一人
職業機關に依るもの、募集 三七人
私的個人關係に依るもの、勧誘五九人

の如く大別することを得るであらう。而して總數一七人に對する各割合は夫々一七、九%、三一、七%、五〇、四%となつて私的個人關係の手筈に依る者が半分を占め、官に依るものが最も少いのである。

二、農家

總數二六三人に付、出先地域別（但南洋を除く）にその各々の總數に對する各手筈の割合を見ると左の如くである。

地域	總數	無	勧誘	募集	報國隊
朝鮮	一〇〇	七六、九%	一七、九	三、七	一、五
内地	一〇〇	四七、二	二二、六	二一、七	七、五
滿洲	一〇〇	六〇、〇	一五、〇	一五、〇	一〇、〇

即ち、内地に行つた者は勧誘及募集に依る場合が比較的多い、手筈の無い場合の割合が内地に於て三地域中最も低いのは、他出に關する道程の困難なことに依るであらう報國隊は内地が朝鮮の割合よりも多くなつてゐる。

三、非農家

總數五三人に付、農家に於けると同様の觀察をすると左記の通りであるが勧誘を除き農家と同じことが看取される。

地域	總數	無	勧誘	募集	報國隊
朝鮮	一〇〇	七二、〇%	二、〇〇	四、〇	四、〇

内	100	55.0	1.50	1.50
支	100	100	1.50	1.50

第八表 農家經濟の收支状態及家計補助の程度より見たる他出家族員數
第一、本表作成の基準

1. 農家經濟の收支状態は、昭和十八年度を標準として農業經營に依る收支は固より凡そ家計上有用なる一切の收支に付觀察し、これを左の三つに區分した。
 2. 上——收支相償うて収入の超過するもの
 3. 中——收支相償うて均衡を保つもの
 4. 下——收支相償はず支出の超過するもの
- 二、家計補助の程度は、昭和十八年に於ける一箇年間の送金額を以て示した。但し他出後一年に滿たざる者にあつては最近の送金額を合算して表示することとした。

第二、結果の説明

一、送金者數

他出家族員總數二六三人の中、送金を爲す者は一〇二人で三八、八%である。この一〇二人の内譯は

上階層	三七人	三六、三%
中階層	二六人	二五、五%
下階層	三九人	三八、二%

の如くであつて、下階層に屬する者が最も多く、中階層に屬する者が一番少い更に職業別に見ると次のやうになる。

職業別は第六表の六大群の分類に従ふ。

職業	總數	送金者數	割合
(イ) 農業者	三一	六	一九、四%
(ロ) 商業者	一四	七	五〇、〇%
(ハ) 銀行會社員及其他の事務者	一五	八	五三、三%
(ニ) 工員及其他の事務者	一五八	七四	四六、八%
(ホ) 公務員	九	二	二二、二%
(ヘ) 其他(但雇女及不詳を含む)	三六	五	一三、九%
計	二六三	一〇二	三八、八%

其他に屬する者を除き、農業者及公務員の割合が最も低く、銀行會社員及其他の事務者と商業者は一番高く、各々その流出人口の半數を占めて居り、工員及其他の事務者にあつては半數に少々足りない。

二、一人當送金年額

1. 送金者一人當の送金年額は、四二三、三圓である。これを階層別に見ると、上階層五三五、四圓、中階層四一六、七圓下階層三二二、二圓となり、上階層が最も多く、下階層が一番少い。

(イ) 農業者	六五六、二圓
(ロ) 商業者	三五七、一圓

(イ) 銀行會社の其の他の事務者	七六七、五圓
(ロ) 工員及其の他の事務者	三七八、六圓
(ハ) 公務員	三二〇、〇圓
(ニ) 其の他の	三九二、〇圓
(イ) 農業者	一二七、〇圓
(ロ) 商業者	一七八、六圓
(ハ) 銀行會社員其の他の事務者	四〇九、三圓
(ニ) 工員及其の他の事務者	一七七、三圓
(ハ) 公務員	六八、八圓
(イ) 其の他の	五四、四圓

2、他出家族員一人當の送金年額
 總平均額一六四、一圓である。階層別では、表に見る如く、中階層の一八三、六圓が最も多く、稍々下つて上階層の一七二、二圓これに次ぎ、下階層は最も少く一四〇、七圓である。
 これを職業別によつては

となつて矢張り銀行會社員及其の他の事務者が最多であり、商業者、工員及其の他の事務者これに次ぎ、其の他を除いては公務員が遙かに下つて最も少くなつてゐる。
 要するに、他出家族員に依つて農家に持込まれる一人當の平均金額は、銀行會社員及其の他の事務員に依るものが最多額を占め、工員及其の他の事務者、商業者、農業者等が大凡同程度であり、公務員が最少額であるといへる。

三、送金額

職業別に分けて送金額の内譯を見ると

(イ) 農業者	金 額	精 合
(ロ) 商業者	三、九三七圓	九、一%
(ハ) 銀行會社員及其の他の事務者	二、五〇〇圓	五、八
(ニ) 工員及其の他の事務者	六、一四〇圓	一四、二
(ホ) 公務員	二八、〇一五圓	六四、九
(イ) 其の他の	一、九六〇圓	一、五
計	四三、一七二圓	一〇〇、〇

となつてゐるが、つまり他出家族員に依つて持込まれる金員は、太平が工員及其の他の事務者に依るものであつて、他は銀行會社員及其の他の事務者に依るものが比較的多いけれども皆些々たる割合である。
 第九表 農家に於ける求職流出と農業勞力の變化
 第一、本表作成の基準

一、農業努力は、経営規模別に農家の世帯数とその世帯員数とを以て表示した。
 二、農業努力の變化は、農家の世帯数にその現任世帯員数及既存世帯員数（現任世帯員数に求職流出に依る他出家族員数を加算したるもの）を對置せしむることに依つて経営規模別に表章した。併し乍ら、嚴密に言へば、農業努力の變化は現住家族員と現住家族員たるべき不在家族員とを對應せしめるべきであるけれども、本報告に於ては、資料及集計技術上之を標記し得なかつたことを斷つておく。
 三、世帯員及他出家族員は男女共に生産年齢層に屬する者に限り、生産年齢層は一六—六〇歳迄とする。

第二、結果表の説明

本表より他出家族員数及その所屬世帯数の現任世帯員数及その所屬世帯数に對する割合と、現任世帯員及既存世帯員の戸當平均人員数を算出すると左の通である。

一、他出家族員数及その世帯数の割合

規模	世帯数	世帯員数	割合
五反未満	5,540	15,200	27.4%
一町未満	10,200	28,000	27.4%
二町未満	11,800	33,000	27.9%
三町未満	10,000	28,000	28.0%
三町未満	11,000	30,000	27.3%
三町以上	11,000	30,000	27.3%
合計	57,340	155,200	27.1%

世帯数の割合は總數で二五、四%である即ち、約四分の一に相當する農家が、人口を流出してゐる譯である。経営規模別では三町以上を除いていふと、五反未満に於て人口流出農家の割合が最も多く三町未満が最も少い。その間経営規模別上の傾向はないが五反未満と二町未満の割合が類似し、一町未満と三町未満の割合が類似してゐる。

世帯員の中、先づ男にあつては總數に於て二一、七%であつて現任男子世帯員の約五分の一に相當する人口が流出してゐることになる。経営規模別では五反未満が斷然高率であり、以下三町以上を除いて規模の小となるにつれ割合も低くなつてゐる。次に女にあつては五反未満が二、三%を示してゐる外、格別いふべきことがない。

二、戸當平均世帯員数

1. 現存世帯員の戸當平均人員

規模	世帯員数	平均人員
五反未満	15,200	2.74
一町未満	28,000	2.74
二町未満	33,000	2.79
三町未満	28,000	2.80
三町以上	30,000	2.73
合計	155,200	2.71

三町以上を除いていふと男女共に経営規模の大きさと平均人員の大きさは比例してゐる。更に女にあつては男よりも常に大きくなつてゐる。

2. 既存世帯員の戸當平均人員

規模	世帯員数	平均人員
五反未満	15,200	2.74
一町未満	28,000	2.74
二町未満	33,000	2.79
三町未満	28,000	2.80
三町以上	30,000	2.73
合計	155,200	2.71

前項に比較すると、五反未満の割合が他に比して著しく増加してゐること、男女の割合の大小が逆になつて男の比率が女のそれを凌駕してゐることなどが注意せられる。因に、兩者の差を表示すると左の如くである。

性別	世帯員数	平均人員
男	81,000	2.71
女	74,200	2.71

女 10.0 10.0 10.0 10.0 10.0 10.0

現住世帯員と既存世帯員の戸當平均人員の差は男によつては、五反未満が最も多く〇、三四人である。経営規模別に見て一定の合律性は見られないが、三町以上を除くと三町未満が最も少い。女は何れも微々たるものである。

第三、現住世帯員構成の變動

本調査地域中、平澤、南原、金海（外洞里二區を含まず）に就ては昭和十五年國勢調査の申告票寫を利用出来るので茲に兩調査の結果を比較して見ることとする。（別表参照）

云ふ迄もなく國勢調査は現在人口であるし本調査は現住人口である點で彼此その標準を異にするのであるが併し乍ら、この別表作成に當つては國勢調査申告票寫の中から來客とか一時滞在者とかいふ者を除外すると共に本調査票の中から一時不在者なるものを總て除外することに依つて兩人口の内色を出來るだけ一致せしめることに留意したのである。

一、一戸當平均世帯員數

總戸數は本調査が四戸増加してをり、世帯員數も三六人多くなつてゐるが、一戸當平均世帯員數は國勢調査の結果が五、三九人で本調査に依るものが五、四一人となつて〇、〇二人だけ殖えてゐるけれども略々同じものといへやう。

之を地域別に見ると、世帯數によつては南原が二戸減少してゐるのみで他は何れも、八戸宛増加してをり、兩調査に於ける平均世帯員數の増減割合は左の如くであつて、減少してゐるのは金海だけでゐる。南原は略々相等しく平澤は相當増加してゐる。

平澤	國勢調査	本調査	増減
	五、六九	五、八八	〇、一九（十）

南原	五、〇四	五、〇六	〇、〇二（十）
金海	五、四六	五、二九	〇、一七（一）

尙、南原に於ける戸數の減少に關しては次のことが注意せらるべきであらう。即ち國勢調査當時調査部落内に存在した世帯の中、一家全部が調査部落外に移住したものに付その一家移住の原由を調査すると、南原では他の本調査地域に於て見られない特異なものとして、供出後の食糧難の爲といふのが相當多く、勞務招集を恐れてといふものもあるといふことであつて、前者は一七戸を算し、後者は一戸存在した。

これら各世帯の、本調査部落内に於ける居住期限は凡そ左の如くである。

十代	一戸
二代	二戸
四十年	六戸
三十年	二戸
二十年	二戸
十年未満	四戸
計一七戸	

(2)、勞務招集を恐れてといふ理由に依るもの三十年、二戸

二、性比

國勢調査に依る三地域の人口は三二四六人で本調査に依るものは三一八二人であり、その男女別構成に關し女子人口

一〇〇人に對する男子人口の割合を観察すると左の通である。
 國勢調査に依るもの
 本調査に依るもの

總數	一〇一、〇	九五、八	南原	一〇八、三	金海	九九、四
	九四、四	八九、六		九四、四		一〇〇、〇

右に依れば全體として國勢調査の結果は男子人口が僅かに多く、本調査の結果は女子人口が多少多くなつてゐる。
 地域別に見ると金海は兩調査共殆ど同じであるけれども平澤は本調査に於て約六%位減少してをり南原にあつては一四%程も減つて明かに女子超過の構成態に轉じてゐる。
 三、生産年齢層の割合

(イ) 男子の割合

總數	一六、一六〇	二一、一五〇
平澤	五、七	五、八
南原	五、三六	五、七
金海	五、〇四	五、三

右に依れば、地域別に見て、平澤が一六、一六〇歳階層で一、%の増加を來してゐる外他の總ての割合に於て本調査の結果は國勢調査のそれよりも各々低率を示す。殊に全體として一六、一六〇歳階層の一、四%減より以上に二一、一五〇歳階層の二、三%減少が目立ち、又一六、一六〇歳階層にあつては南原の三、九%、二一、一五〇歳階層にあつ

ては金海の二、九%の夫々の減少が顯著である。而して絶対數總數に於て一六、一五〇歳迄の者は昭和十五年の六九一人から昭和十九年には六四一人と五〇人減少してゐる。

(ロ) 女子の割合

總數	一六、一六〇	二一、一五〇
平澤	五、一	五、三
南原	五、九六	五、九
金海	五、〇四	五、八〇

女子の割合は男子と異り全體的に見て兩調査の結果に於ける増減が殆ど認められない。即ち一六、一六〇歳階層にあつては〇、二%増加せるも、二一、一五〇歳階層では〇、二%減少したに過ぎない。併し乍ら地域別に見ると男子の場合に兩階層共特に二一、一五〇歳階層に於て多少減少してゐる金海が女子にあつては兩階層共に却つて幾分増加してゐることが分る。

要するに全體として總人口は増加してゐるのに生産年齢層の割合は減つてゐるといふことを注意すれば足りる。

第十表 他出せしことある者の他出中の職業期間及歸宅の理由より見たる現住家族員數

第一、本表作成の基準

一、他出中の職業は、第六表と同様に個別的に列擧して表示した。全部二十種である。

二、他出中の期間は、左の如く四つに區分した。



- 1. 一年未満
 - 2. 三年未満
 - 3. 五年未満
 - 4. 五年以上
- 三、歸宅の理由は、左の如く八つに區分した。

- 1. 年期満了
- 2. 業務終了
- 3. 儲蓄歸農（但、非農家にあつては之を除く）
- 4. 生活不如意
- 5. 病氣
- 6. 結婚
- 7. 家庭の都合
- 8. その他

第二、結果表の説明

一、現住家族員の中で他出したことのある者は農家が二四〇人、非農家が二二人であつて、その現住世帯員總數に對する割合は（第二表参照）農家が三%であり非農家が三、八%である。歸村者の中、農家非農家共に雇女を除いては總て男子であるが、この男子歸村者の、男子現住世帯員に對する割合を觀察すると農家は歸村者一三七人、現住世帯員

二、職業別

二三三八人で五、九%であり、非農家は歸村者二一人、現住世帯員二五八人で八、一%となる。

- 1. 農家（第I表）出先職業の主なるものについて歸村者總數一四〇人に對する割合を見ると
- | | | | | | | |
|-------|------|------|-----|-----|-----|----|
| 土木労働 | 職工 | 日傭 | 農 | 業 | 炭坑夫 | 大工 |
| 二七、一% | 一七、一 | 一五、六 | 九、三 | 六、四 | 四、三 | |
- 土木労働が最も多く職工、日傭これに亞ぎ、その中工員其の他の勞務者だけで五四、九%を占めて居り、農業者は二二、九%を示してゐる。

2. 非農家（第II表）

非農家の歸村者二名の中、工員其の他の勞務者は八人であるのでその三六、四%であり、農業者は六人であるのでその二七、三%である。

三、地域別

出先を朝鮮内、内地、滿支、南洋の四地域とする。

1. 農家（第I表）

地域別に見た歸村者數及其の全體に對する割合は	
朝鮮内	八一人 五七、九%
内地	四六人 三三、九%
滿支	二二人 八、六%

南洋 一人

〇、五%

計

一四〇人

一〇〇、〇

2. 非農家(第I表)

殆ど全部が朝鮮内及内地を出先としてゐた者であることを示し、朝鮮内が半分以上、内地が三分の一以上である。非農家に於ける歸村者の出先は、朝鮮内七人、内地七人、滿支七人、南洋一人で、南洋を除き三地域が同じく全體の三分の一程度である。

四、期間別

1. 農家(第I表)

他出期間別に歸村者の内譯を見ると左の通である。

朝鮮内	内地	總數				
		一年未滿	三年未滿	五年未滿	五年以上	
100	100	140	51	44	16	
100	100	36、4%	31、4%	11、4%	20、7%	
朝鮮内	内地	100	40、7%	25、9%	13、3%	
100	100	26、1%	49、1%	18、7%	26、1%	

五年以上を除いていふと、期間が短い程歸村者が多くなつてゐる。全體として三年も俟たずに歸つて來る者が六七、八%にも上つてゐる。

朝鮮内と内地よりの各歸村者に於ける他出期間別人員のその各々に對する割合は左の如くなつてゐる。

一年以上の者の割合は朝鮮内五九、二%内地八三、九%であり、三年以上の者の割合は朝鮮内三三、三%内地三四、八%であり、更に五年以上は朝鮮内二二、〇%内地二六、一%となつて何れも地域別に見て内地に出でゐた者の期間が比較的長いことが分るのである。

2. 非農家(第I表)

他出期間別の歸村者の割合は

合計	總數	割合				
		一年未滿	三年未滿	五年未滿	五年以上	
100	100	31、8%	27、3%	23、7%	18、2%	

他出期間の長短と歸村者の割合の高低とは逆比の関係にあること農家の場合と同様である。

五、理由別

1. 農家(第I表) 歸村者一四〇人に付、歸宅の理由別に各割合を算出すると次の通りである。

- イ、家庭の都合 四三、六%
- ロ、生活不如意 二五、〇%
- ハ、病氣 九、三%
- ニ、年期滿了 六、四%
- ホ、儲蓄歸農 五、七%
- ヘ、業務終了 二、一%

ト、結婚 〇、八
チ、その他 七、一

歸宅の理由の主なる理由は、家庭の都合が最も多く、生活不如意、病氣等である。歸宅の理由の主なるものに付、高い比率を占める職業は左の如くである。

(一) 家庭の都合一六一人の中

職 工 土木労働 日 借 農 業 火、工 炭坑夫 計
一九、七% 一六、四 一、五 六、六 六、六 七、七、二%

(二) 生活不如意三五人の中

土木労働 職 工 日 借 農 業 計
二八、六% 二〇、〇 一四、三 八、六、七、一、五%

(三) 病氣一三人の中

土木労働 日 借 職 工 計
三、八、五% 二、三、一 一、五、四 七、七、〇%

(四) 年期限満一九人の中

土木労働 炭 坑 夫 計
七、七、八% 三、三、二 二〇、〇%

(五) 備蓄歸農一八人の中

土木労働 職 工 計

六二、五%

三七、五%

一〇〇

2. 非農家(第I表)

非農家に於ける歸村者の歸宅の理由の主なるもの、農家と全く同様であつてその理由に付、全體に對する割合を計算すると左の通りである。

イ、家庭の都合 三六、四%

ロ、生活不如意 二二、七%

ハ、病 氣 一八、二%

計 七七、三%

非農家に於ける歸宅の理由は、第I表に示したものしかなく農家の如く多くはない。

第十一表 教育程度別、年齢構成別現住家族員中の通勤者及季節的出稼者数

第一、本表作成の基準

一、通勤者とは、部落の内外を問はず給料又は賃銀を受けて現住地より定時且定期的に勤務場所に通つてゐるものである。

従事する職業の内容は之を問はない。

二、季節的出稼者とは、毎年一定の期間を限つて定期に現住部落外に出稼するものを指稱する。

三、教育程度は、これを左の如く五つに區分した。

1. 不就學

- 2. 初等學校中退
 - 3. 初等學校卒業
 - 4. 中等學校中退
 - 5. 中等學校卒業以上
- 四、年齢は數へ年である。

第二、結果表の説明

一、通勤者一男子だけで女子は一人も居らない。

1. 農家(第I表参照)

總數六八人であり農家男子人口二三三八人の二、九%に當る。

(一) 年齢構成別

イ、通勤者の年齢は一六―五五歳迄で恰も生産年齢層に該當する。農家男子一六―五五歳階層人口一〇五八人の六、四%である。

ロ、總數六四人の年齢構成に於ける割合は左の如くである。

總數	一六一二〇	二二一二五	二六一三〇	三一一三五	三六一四〇	四一以上
	一〇〇	二九、四%	二七、九	一九、一	一七、八	七、四

即ち、年齢階層の若い程割合が多く二五歳迄で過半数を超える。そして四〇歳迄の通勤者六五人は同年齢層にある農家男子人口七四七人の八、七%に上る。

(二) 教育程度別

イ、通勤者の就學率は左の通りである。

不 就 學	初 等 中 退	初 等 卒	中 等 卒 以 上
二六、四%	五、九	五七、四	一〇、二

初等卒業者が過半数であるが、不就學者も少なく全體の約四分の一程もある。

初等卒業以上の者四六人は、現住世帯員中初等卒業以上の者二二人(第二表中の第K表参照)の二二、八%に當り、その一六―四〇歳階層にある初等卒業以上の者一八六人の二四、七%つまり約四分の一に當る。

ロ、各年齢階層に於ける通勤者別の就學率初等卒業以上の者の割合は左の如くである。

初等卒業以上の者の割合	一六―二〇	二一―二五	二六―三〇	三一―三五	三六―四〇	四一以上
	九〇、〇%	六三、二	五三、八	六二、五	六〇、〇	〇、〇

四一歳以上を除いて各階層共半数以上を占めてゐるが、就中一六―二〇歳を階層の者は特に高率である。

2. 非農家(第II表参照)

總數一五人であり非農家男子人口二五八人の五、八%に當る。

(一) 年齢構成別

イ、通勤者の年齢は農家と同じく一六―五五歳迄で生産年齢層である。非農家男子一六―五五歳階層人口二一九人の二二、六%である。

ロ、總數一五人の年齢構成に於ける割合は農家に於けるが如く年齢層の若さと比例するといふことは見られない。

四〇歳迄の通勤者二人は同年齢層にある非農家男子人口八三人の一四、四%に該る。

(二) 教育程度別

通勤者の就學率は農家に比して頗る低く。初等卒が三三、三%中等卒以上が二〇%であり、不就學は四六、七%に上る。

二、季節的出稼者一男子だけで女子は一人も居ない。

1. 農家(第一表参照)

總數一四人で、その年齢構成は三一―三五歳階層の四人を最多として爾餘は分散的ではなく、教育程度は極めて低く初等學校卒業者が二人居るだけで皆不就學者である。

2. 非農家(第二表)

總數僅かに三人で特に述べべきことはない。

追記

本報告中、第一表、專業兼業別、自小作別、經營規模別、農家、數及職業別非農家數に就ては、農村人口移動調査結果報告第一報として過日調査月報第十五卷第六號(昭和十九年六月號)に公表したのであるが、其の後本調査集計完了の結果に依り當該掲上計數の中脱落及過誤の存することが判明したので茲に之を追完補正した次第である。

農村人口移動調査結果表(第一表―第十一表)

(第一表) 專業兼業別、自小作別、經營規模別農家數及職業別非農家數

(一) 總覽表

(2) 調査總戸數	九八〇戸	農家	八二六	非農家	一五四
(1) 農家數	七二五戸	番作地帯(平澤、南原、永川、金海)	七二五	田作地帯	一一七
				川作地帯	一一五
				田作地帯	一九五

(4) 番作地帯(平澤、南原、永川、金海) 七二五戸

I、專業兼業別農家ノ自小作別構成

專業兼業別	自小作別		兼業		計
	自小作別	兼業	兼業	兼業	
地主兼農	一	一	一	一	四
自作兼小作農	三	三	三	三	一三
自作兼自作農	四	四	四	四	一六
小作兼自作農	六	六	六	六	二四
小作兼小作農	七	七	七	七	二八
小作兼自作農	八	八	八	八	三二
小作兼小作農	九	九	九	九	三六
計	三六	三六	三六	三六	一四四

經營規模別	専業兼業別					計
	一町未滿	二町未滿	三町未滿	四町未滿	五町未滿	
自作農	1	1	1	1	1	5
小作農	1	1	1	1	1	5
地主	1	1	1	1	1	5
自兼業	1	1	1	1	1	5
小兼業	1	1	1	1	1	5
計	5	5	5	5	5	25

經營規模別	専業兼業別					計
	小作農	自作農	自兼業	地主	自兼業	
専業	1	1	1	1	1	5
兼業	1	1	1	1	1	5
計	2	2	2	2	2	10

一町未滿 五町未滿 經規模別 專業業別

元	三	從他ノ産業ヲ 從トスルモノ	從貨勞働ヲ 從トスルモノ	從他ノ産業ヲ 主トスルモノ	從貨勞働ヲ 主トスルモノ	計
二	一					
七	三					
四	四					
一	四					
五	三					計

畜産計

計 小作 自作 地主 自小作 專業業別

九	九	三	一	從他ノ産業ヲ 從トスルモノ	從貨勞働ヲ 從トスルモノ	從他ノ産業ヲ 主トスルモノ	從貨勞働ヲ 主トスルモノ	計
九	三	一	一					
三	三	五	四					
三	四	一	八					
五	五	一	一					
六	五	一	一					計

計 畜産計

(ロ) 全羅北道南原郡 雲峰面 山德里

I 專業業別農家ノ經營規模構成

計 十町未滿 五町未滿 四町未滿 三町未滿

小作	自作	地主	自小作	小作	自作	地主	自小作	小作	自作	地主	自小作	小作	自作	地主	自小作	計
四	三	四	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	二
五	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	五
元	二	五	四	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	三
二	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	二
三	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	二
三	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	五

計	小作農	自作農	地主	自小作別	専業兼業別	専業	兼業
共	三	三	二	七	一	八	三
計	三	三	二	七	一	八	三
計	三	三	二	七	一	八	三
計	三	三	二	七	一	八	三

(二) 慶尚南道金海郡金海邑内洞里

計	小作農	自作農	地主	自小作別	専業兼業別	専業	兼業
計	三	三	二	七	一	八	三
計	三	三	二	七	一	八	三
計	三	三	二	七	一	八	三
計	三	三	二	七	一	八	三

計	小作農	自作農	地主	自小作別	専業兼業別	専業	兼業
計	三	三	二	七	一	八	三
計	三	三	二	七	一	八	三
計	三	三	二	七	一	八	三
計	三	三	二	七	一	八	三

専業別	専業兼別					計
	五段未滿	四段未滿	三段未滿	二段未滿	一段未滿	
専業	1	1	1	1	1	5
兼業	1	1	1	1	1	5
計	2	2	2	2	2	10

専業兼業別自小作別經營規模構成

經營規模	専業兼別					計
	五段未滿	四段未滿	三段未滿	二段未滿	一段未滿	
専業	1	1	1	1	1	5
兼業	1	1	1	1	1	5
計	2	2	2	2	2	10

地域	専業兼別					計
	五段未滿	四段未滿	三段未滿	二段未滿	一段未滿	
平澤	1	1	1	1	1	5
金海	1	1	1	1	1	5
金海	1	1	1	1	1	5
永川	1	1	1	1	1	5
南原	1	1	1	1	1	5
計	5	5	5	5	5	25

地域別専業農家並ニ専業農家及營農ヲ主トスル兼業農家割合

地域	専業農家數	専業農家及營農ヲ主トスル兼業農家割合
平澤	125	51.6%
金海	125	51.6%
金海	125	51.6%
永川	125	51.6%
南原	125	51.6%
計	625	51.6%

地域別經營規模別専業農家並ニ専業農家及營農ヲ主トスル兼業農家ノ割合

經營規模	専業	兼業	計
一段未滿	125	125	250
二段未滿	125	125	250
三段未滿	125	125	250
四段未滿	125	125	250
五段未滿	125	125	250
計	625	625	1250

一町未満		五段未満		總數		三町以上		三町未満		二町未満	
男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女
1,633	1,633	1,633	1,633	1,633	1,633	1,633	1,633	1,633	1,633	1,633	1,633
...

I 專業農家

一町未満		五段未満		總數		金海		南	
男	女	男	女	男	女	外	内	川	原
...

第二表 現任世帯員ノ構成 (性別、年齢別、教育程度別)

年 齡 / 男 女		總 數	
一五歲以下	二二	二二	二二
一六歲	二二	二二	二二
一七歲	二二	二二	二二
一八歲	二二	二二	二二
一九歲	二二	二二	二二
二〇歲	二二	二二	二二
二一歲	二二	二二	二二
二二歲	二二	二二	二二
二三歲	二二	二二	二二
二四歲	二二	二二	二二
二五歲	二二	二二	二二
二六歲	二二	二二	二二
二七歲	二二	二二	二二
二八歲	二二	二二	二二
二九歲	二二	二二	二二
三〇歲	二二	二二	二二
三一歲	二二	二二	二二
三二歲	二二	二二	二二
三三歲	二二	二二	二二
三四歲	二二	二二	二二
三五歲	二二	二二	二二
三六歲	二二	二二	二二
三七歲	二二	二二	二二
三八歲	二二	二二	二二
三九歲	二二	二二	二二
四〇歲	二二	二二	二二
四一歲	二二	二二	二二
四二歲	二二	二二	二二
四三歲	二二	二二	二二
四四歲	二二	二二	二二
四五歲	二二	二二	二二
四六歲	二二	二二	二二
四七歲	二二	二二	二二
四八歲	二二	二二	二二
四九歲	二二	二二	二二
五〇歲	二二	二二	二二
五〇歲以上	二二	二二	二二

(附表) 年 履 日 備 勞 働 家 計 ノ 主 ナ ル 職 業 ト ス ル 非 農 家 世 帯 員 數 (男 女 年 齡 別 構 成)

年 齡 / 男 女		總 數	
一五歲以下	二二	二二	二二
一六歲	二二	二二	二二
一七歲	二二	二二	二二
一八歲	二二	二二	二二
一九歲	二二	二二	二二
二〇歲	二二	二二	二二
二一歲	二二	二二	二二
二二歲	二二	二二	二二
二三歲	二二	二二	二二
二四歲	二二	二二	二二
二五歲	二二	二二	二二
二六歲	二二	二二	二二
二七歲	二二	二二	二二
二八歲	二二	二二	二二
二九歲	二二	二二	二二
三〇歲	二二	二二	二二
三一歲	二二	二二	二二
三二歲	二二	二二	二二
三三歲	二二	二二	二二
三四歲	二二	二二	二二
三五歲	二二	二二	二二
三六歲	二二	二二	二二
三七歲	二二	二二	二二
三八歲	二二	二二	二二
三九歲	二二	二二	二二
四〇歲	二二	二二	二二
四一歲	二二	二二	二二
四二歲	二二	二二	二二
四三歲	二二	二二	二二
四四歲	二二	二二	二二
四五歲	二二	二二	二二
四六歲	二二	二二	二二
四七歲	二二	二二	二二
四八歲	二二	二二	二二
四九歲	二二	二二	二二
五〇歲	二二	二二	二二
五〇歲以上	二二	二二	二二

V 農 家 非 農 家 別 自 小 作 別 經 營 規 模 別 現 任 世 帯 員 數

世 帯 總 數	農 家	非 農 家
六 一 歲 以 上	一七九	一六九
五 〇 歲 以 上	一八八	一七三
四 〇 歲 以 上	二二五	二一八
三 〇 歲 以 上	二五〇	二四二
二 〇 歲 以 上	二九二	二八二
一 〇 歲 以 上	三三〇	三二二
一 歲 以 上	三九一	三八七
總 數	四六五	四四二

N 農 家 及 非 農 家

總 數	男	女
五、二八五	二、五九六	二、六八九
二、二九三	一、一五一	一、一四二
四六五	二三八	二二七
三四六	一五九	一八七
三二九	一五五	一七四
三二一	一四八	一六三
三〇二	一三〇	一七二
二五六	九二	一三八
二四三	二五	一一八
一六二	八九	七三
三四八	一七九	一六九

年齢	I 非農家		II 農家	
	總數	男女	總數	男女
一五歳以下	16120	8060	19100	9550
一六―二〇	21125	10562	24100	12050
二一―二五	26130	13065	29100	14550
二六―三〇	31135	15570	34100	17050
三一―三五	36140	18075	39100	19550
三六―四〇	41145	20580	44100	22050
四一―四五	46150	23085	49100	24550
四六―五〇	51155	25590	54100	27050
五一歳以上	56160	28095	59100	29550
總數	361700	180850	411000	205500

第三表 移動形態ヨリ見タル他出家族員數

年齢	I 農家		II 地域別一戸當現住世帯員數	
	總數	男女	農	非農家
一五歳以下	16120	8060	19100	9550
一六―二〇	21125	10562	24100	12050
二一―二五	26130	13065	29100	14550
二六―三〇	31135	15570	34100	17050
三一―三五	36140	18075	39100	19550
三六―四〇	41145	20580	44100	22050
四一―四五	46150	23085	49100	24550
四六―五〇	51155	25590	54100	27050
五一歳以上	56160	28095	59100	29550
總數	361700	180850	411000	205500

II 農家非農家別男女別教育程度別現住世帯員數

非農家	農家												
	計		十町未満		五町未満		四町未満		三町未満		一町未満		五反未満
女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男
1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14
1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14
1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14
1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14
1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14
1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14
1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14
1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14

(P) 他出年次別・世帯上ノ地位及男女別ヨリ見タル他出家族員數

總數	世帯上ノ地位										
	一五歳以下		一六		一七		一八		一九		二〇
女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男
1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12
1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12
1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12
1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12
1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12
1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12
1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12
1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12
1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12

(イ) 世帯上ノ地位ト經營規模ヨリ見タル他出家族員數(性別・年次別・年齢構成別)

經營規模別 世帯上ノ地位 總數 父・母 (叔父) (叔母) (妻) (主人) 兄・姉 弟・妹 (妻長男) 長男 (長女) 二男 二女 (孫男) (孫女)

農				總		規				他 用 者 數	規 模 別		
二町 未滿	一町 未滿	五反 未滿		總 數		規							
女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男
5	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1

農				總		規				世 帯 上 の 他 用 者 數	規 模 別		
二町 未滿	一町 未滿	五反 未滿		總 數		規							
女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男
5	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1

(ハ) 經營規模別・年齢構成別・男女別ヨリ見タル他出家族員數

(イ) 世帯上の他出家族員數

日	年	主	炭	職	大	運	旅	精	行	小	土	病	店	組	合	捕	官	軍
履	年	木	坑			轉	館	采		賣	院	助	員	員	員	員	員	員
備	女	履	夫	工	工	手	菜	菜	商	商	菜	手	員	記	員	員	員	員

三	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一
三	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一
三	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一
三	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一
三	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一

職業	總數	非農	家									
			計		十町未滿		五町未滿		四町未滿		三町未滿	
			女	男	女	男	女	男	女	男	女	男

總數	二六三	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一
不就業	一五九	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一
國民學校中退	一五	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一
國民學校卒業以上	八九	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一

第六表 教育程度別他家族員ノ出先職業ト其ノ地域の分布

職 業	總 數	地 域	農 家		非 農 家	
			總 數	國民學校畢業以上	總 數	國民學校畢業以上
職 業 總 數	103	地 域 分 布	103	72	1	3
不 農 業	103	地 域 分 布			1	3
農 業	0	地 域 分 布			0	0
會 社 員	1	地 域 分 布			0	1
小 商 販	1	地 域 分 布			0	1
大 商 販	1	地 域 分 布			0	1
職 工	1	地 域 分 布			0	1
炭 坑 勞 務	1	地 域 分 布			0	1
土 木 勞 務	1	地 域 分 布			0	1
日 本 籍 勞 務	1	地 域 分 布			0	1
居 住 地		地 域 分 布			0	0
總 數		地 域 分 布				
總 數		地 域 分 布				
總 數		地 域 分 布				
總 數		地 域 分 布				
總 數		地 域 分 布				

職 業	總 數	地 域	農 家		非 農 家	
			總 數	國民學校畢業以上	總 數	國民學校畢業以上
職 業 總 數	103	地 域 分 布	103	72	1	3
不 農 業	103	地 域 分 布			1	3
農 業	0	地 域 分 布			0	0
會 社 員	1	地 域 分 布			0	1
小 商 販	1	地 域 分 布			0	1
大 商 販	1	地 域 分 布			0	1
職 工	1	地 域 分 布			0	1
炭 坑 勞 務	1	地 域 分 布			0	1
土 木 勞 務	1	地 域 分 布			0	1
日 本 籍 勞 務	1	地 域 分 布			0	1
居 住 地		地 域 分 布			0	0
總 數		地 域 分 布				
總 數		地 域 分 布				
總 數		地 域 分 布				
總 數		地 域 分 布				
總 數		地 域 分 布				

不	農	居	日	年	土	炭	職	大	小	店	會	教	總	地	不
群	業	屋	修	履	備	夫	工	工	商	員	員	員	數	域	牛
群	業	屋	修	履	備	夫	工	工	商	員	員	員	數	域	車
四	二	一	一	四	五	一	三	三	一	一	一	一	二	五	八
															(內女)
															朝鮮內
															內地
															滿支
															南洋

第七表 農家非農家別出先地域別就職ノ手藝ヨリ見タル他出家族員數

V 非農家ノ他出家族員ノ出先職業ト其ノ地域ノ分布

漁	農	居	日	履	年	土	炭	職	大	運	旅	精	行	小	土	病	店	組	會
業	業	屋	修	女	履	備	夫	工	工	手	業	業	商	商	業	手	員	記	員
二	六	五	一	〇	一	六	二	七	一	六	一	一	二	二	一	一	一	一	一

三一(內女四)

職															狀			
大	運	旅	精	行	小	土	病	店	組	會	捕	官	軍	面	巡	總	中	下
工	手	榮	榮	商	商	業	手	員	員	員	員	員	員	員	員	員	數	數
九	一	一	一	二	三	一	一	六	二	一	一	一	一	一	一	一	二六三	八九
																	三九	二六
																	一〇二	三九
																	二〇	二〇
																	一〇、八三五	一八三、六
																	一一、五二七	一四〇、七
																	四三、一七二	一六四、一
																	二〇	二〇〇
																	六〇〇	六〇〇
																	五、六〇〇	四三〇〇
																	五四〇	二七〇〇
																	六四〇	一〇六六
																	三六〇	三六〇〇
																	一〇〇	三三〇
																	一〇〇	一〇〇
																	二〇〇	二〇〇〇
																	三八〇	四三、三

農業經濟		地城		地城		地城		地城	
總	計	總	計	總	計	總	計	總	計
農	家	農	家	農	家	農	家	農	家
總	數	總	數	總	數	總	數	總	數
一、一五	二六三	一、一五	二六三	一、一五	二六三	一、一五	二六三	一、一五	二六三
送金者數	送金者數	送金者數	送金者數	送金者數	送金者數	送金者數	送金者數	送金者數	送金者數
一〇二	一〇二	一〇二	一〇二	一〇二	一〇二	一〇二	一〇二	一〇二	一〇二
家計補助ノ程度	家計補助ノ程度	家計補助ノ程度	家計補助ノ程度	家計補助ノ程度	家計補助ノ程度	家計補助ノ程度	家計補助ノ程度	家計補助ノ程度	家計補助ノ程度
一九八一〇	四三、一七二	一九八一〇	四三、一七二	一九八一〇	四三、一七二	一九八一〇	四三、一七二	一九八一〇	四三、一七二
他出家族員總數	他出家族員總數	他出家族員總數	他出家族員總數	他出家族員總數	他出家族員總數	他出家族員總數	他出家族員總數	他出家族員總數	他出家族員總數
一、一五	二六三	一、一五	二六三	一、一五	二六三	一、一五	二六三	一、一五	二六三
送金年額	送金年額	送金年額	送金年額	送金年額	送金年額	送金年額	送金年額	送金年額	送金年額
一六四、一	一七二、二	一六四、一	一七二、二	一六四、一	一七二、二	一六四、一	一七二、二	一六四、一	一七二、二
他出家族員一人當送金年額	他出家族員一人當送金年額	他出家族員一人當送金年額	他出家族員一人當送金年額	他出家族員一人當送金年額	他出家族員一人當送金年額	他出家族員一人當送金年額	他出家族員一人當送金年額	他出家族員一人當送金年額	他出家族員一人當送金年額
一七二、二	一七二、二	一七二、二	一七二、二	一七二、二	一七二、二	一七二、二	一七二、二	一七二、二	一七二、二

別表(昭和十五年國勢調査)本調査ノ男女別年齢別人口構成ノ比較

I 國勢調査

總數	男	女	總數	男	女	總數	男	女
一五歲以下	1,588	1,588	1,588	1,588	1,588	1,588	1,588	1,588
總數	5,849	5,849	5,849	5,849	5,849	5,849	5,849	5,849
世帯數	5,849	5,849	5,849	5,849	5,849	5,849	5,849	5,849
一戸當平均世帯員數	1.90	1.90	1.90	1.90	1.90	1.90	1.90	1.90

經營規模別

總數	男	女	總數	男	女	總數	男	女
五段	1,588	1,588	1,588	1,588	1,588	1,588	1,588	1,588
四段	1,588	1,588	1,588	1,588	1,588	1,588	1,588	1,588
三段	1,588	1,588	1,588	1,588	1,588	1,588	1,588	1,588
二段	1,588	1,588	1,588	1,588	1,588	1,588	1,588	1,588
一段	1,588	1,588	1,588	1,588	1,588	1,588	1,588	1,588
町未滿	1,588	1,588	1,588	1,588	1,588	1,588	1,588	1,588
町以上	1,588	1,588	1,588	1,588	1,588	1,588	1,588	1,588

經營規模別

總數	男	女	總數	男	女	總數	男	女
三町以上	1,588	1,588	1,588	1,588	1,588	1,588	1,588	1,588
三町未滿	1,588	1,588	1,588	1,588	1,588	1,588	1,588	1,588
三町以上	1,588	1,588	1,588	1,588	1,588	1,588	1,588	1,588

第九表 農家ニ於ケル求職流出ト農業勞力ノ變化

總數	男	女	總數	男	女	總數	男	女
五段	1,588	1,588	1,588	1,588	1,588	1,588	1,588	1,588
四段	1,588	1,588	1,588	1,588	1,588	1,588	1,588	1,588
三段	1,588	1,588	1,588	1,588	1,588	1,588	1,588	1,588
二段	1,588	1,588	1,588	1,588	1,588	1,588	1,588	1,588
一段	1,588	1,588	1,588	1,588	1,588	1,588	1,588	1,588
町未滿	1,588	1,588	1,588	1,588	1,588	1,588	1,588	1,588
町以上	1,588	1,588	1,588	1,588	1,588	1,588	1,588	1,588

經營規模別

總數	男	女	總數	男	女	總數	男	女
三町以上	1,588	1,588	1,588	1,588	1,588	1,588	1,588	1,588
三町未滿	1,588	1,588	1,588	1,588	1,588	1,588	1,588	1,588
三町以上	1,588	1,588	1,588	1,588	1,588	1,588	1,588	1,588

總 數	總 數		滿 支		南 洋		生 活		其 他	
	滿 支	南 洋	滿 支	南 洋	滿 支	南 洋	滿 支	南 洋	滿 支	南 洋
總 數	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
滿 支	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
南 洋	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
生 活	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
其 他	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1

第十一表 教育程度別年齡構成別現住家族員中ノ通勤者及季節の出稼者數

總 數	總 數		滿 支		南 洋		生 活		其 他	
	滿 支	南 洋	滿 支	南 洋	滿 支	南 洋	滿 支	南 洋	滿 支	南 洋
總 數	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
滿 支	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
南 洋	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
生 活	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
其 他	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1

六	五	五	四	四	三	三	二	二	一	一	總
一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	年
歲	歲	歲	歲	歲	歲	歲	歲	歲	歲	歲	齡
以	以	以	以	以	以	以	以	以	以	以	教
上	六	五	五	四	四	三	三	二	二	一	育
	六	五	五	四	四	三	三	二	二	一	程
	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	度

六	五	五	四	四	三	三	二	二	一	一	總
一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	數
歲	歲	歲	歲	歲	歲	歲	歲	歲	歲	歲	非
以	以	以	以	以	以	以	以	以	以	以	農
上	六	五	五	四	四	三	三	二	二	一	家
	六	五	五	四	四	三	三	二	二	一	通
	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	勤
											者
											計

六	五	五	四	四	三	三	二	二	一	一	總
一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	數
歲	歲	歲	歲	歲	歲	歲	歲	歲	歲	歲	季
以	以	以	以	以	以	以	以	以	以	以	節
上	六	五	五	四	四	三	三	二	二	一	的
	六	五	五	四	四	三	三	二	二	一	出
	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	發
											者
											計

六	五	五	四	四	三	三	二	二	一	一	總
一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	年
歲	歲	歲	歲	歲	歲	歲	歲	歲	歲	歲	齡
以	以	以	以	以	以	以	以	以	以	以	教
上	六	五	五	四	四	三	三	二	二	一	育
	六	五	五	四	四	三	三	二	二	一	程
	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	度

六	五	五	四	四	三	三	二	二	一	一	總
一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	數
歲	歲	歲	歲	歲	歲	歲	歲	歲	歲	歲	農
以	以	以	以	以	以	以	以	以	以	以	家
上	六	五	五	四	四	三	三	二	二	一	通
	六	五	五	四	四	三	三	二	二	一	勤
	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	者
											計

六	五	五	四	四	三	三	二	二	一	一	總
一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	數
歲	歲	歲	歲	歲	歲	歲	歲	歲	歲	歲	季
以	以	以	以	以	以	以	以	以	以	以	節
上	六	五	五	四	四	三	三	二	二	一	的
	六	五	五	四	四	三	三	二	二	一	出
	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	發
											者
											計

雜錄

金融統計

(一) 各種銀行 (昭和十九年七月三十一日現在)

財務局

種別	支店数	資本金	拂込済資本金	立金	銀行券	發行高	預金	借入金	貸出金	所有証券	預ケ金	所有不動産	現金
朝鮮銀行	1	100,000,000	100,000,000	100,000,000	100,000,000	100,000,000	100,000,000	100,000,000	100,000,000	100,000,000	100,000,000	100,000,000	100,000,000
商銀	1	100,000,000	100,000,000	100,000,000	100,000,000	100,000,000	100,000,000	100,000,000	100,000,000	100,000,000	100,000,000	100,000,000	100,000,000
帝銀	1	100,000,000	100,000,000	100,000,000	100,000,000	100,000,000	100,000,000	100,000,000	100,000,000	100,000,000	100,000,000	100,000,000	100,000,000
安和	1	100,000,000	100,000,000	100,000,000	100,000,000	100,000,000	100,000,000	100,000,000	100,000,000	100,000,000	100,000,000	100,000,000	100,000,000
三和	1	100,000,000	100,000,000	100,000,000	100,000,000	100,000,000	100,000,000	100,000,000	100,000,000	100,000,000	100,000,000	100,000,000	100,000,000
計	5	500,000,000	500,000,000	500,000,000	500,000,000	500,000,000	500,000,000	500,000,000	500,000,000	500,000,000	500,000,000	500,000,000	500,000,000

備考 1、主なる勘定のみにして、鮮内各店の計数とす
2、朝鮮銀行中預金、貸出金は本部勘定を除く

3、朝鮮銀行中預金内Xは合計に算入せず
4、朝鮮殖産銀行中貸出金のX印は引受債券にして内借とす

(二) 朝鮮信託株式會社 (単位千圓)

項目	支店数	資本金	拂込済資本金	預積立金	借入金	貸付金	所有証券	預ケ金	所有不動産
本月末	1	10,000	10,000	10,000	10,000	10,000	10,000	10,000	10,000
前月末	1	10,000	10,000	10,000	10,000	10,000	10,000	10,000	10,000

(三) 金融組合 (昭和十九年七月末現在)

項目	組合数	支所数	川資金	拂込済川資金	預積立金	借入金	貸出金	所有物	預ケ金
本月末	1	1	10,000	10,000	10,000	10,000	10,000	10,000	10,000
前月末	1	1	10,000	10,000	10,000	10,000	10,000	10,000	10,000

(四) 朝鮮無盡株式會社 (昭和十九年七月末現在)

項目	支店数	資本金	拂込済資本金	預積立金	給付金	無盡擔保貸付	不動産有價証券擔保貸付	未拂無盡	未收無盡
本月末	1	10,000	10,000	10,000	10,000	10,000	10,000	10,000	10,000
前月末	1	10,000	10,000	10,000	10,000	10,000	10,000	10,000	10,000

朝鮮對內地貿易概算額表

(昭和十九年九月中) (單位圓)

財務局

品名	移出主要品價額		移入主要品價額	
	本年九月	前年九月	本年九月	前年九月
牛	6,477	5,977	1,800	1,400
大豆	1,910	2,383	3,737	3,636
鮮魚	10,000	10,000	1,000	1,000
乾魚	1,000	1,000	1,000	1,000
明太魚	1,000	1,000	1,000	1,000
乾海苔	1,000	1,000	1,000	1,000
其他	1,000	1,000	1,000	1,000
合計	22,777	23,750	12,537	12,436
移出主要品價額	22,777	23,750	12,537	12,436
移入主要品價額	1,800	1,400	1,800	1,400
合計	24,577	25,150	14,337	13,836

品名	移出主要品價額		移入主要品價額	
	本年九月	前年九月	本年九月	前年九月
牛	6,477	5,977	1,800	1,400
大豆	1,910	2,383	3,737	3,636
鮮魚	10,000	10,000	1,000	1,000
乾魚	1,000	1,000	1,000	1,000
明太魚	1,000	1,000	1,000	1,000
乾海苔	1,000	1,000	1,000	1,000
其他	1,000	1,000	1,000	1,000
合計	22,777	23,750	12,537	12,436
移出主要品價額	22,777	23,750	12,537	12,436
移入主要品價額	1,800	1,400	1,800	1,400
合計	24,577	25,150	14,337	13,836

本年九月以前累計計

仁川 京山 海州 釜山 大邱

移入	移出	合計
1,000,000	2,000,000	3,000,000
1,500,000	1,500,000	3,000,000
1,000,000	2,000,000	3,000,000
1,500,000	1,500,000	3,000,000
1,000,000	2,000,000	3,000,000
1,500,000	1,500,000	3,000,000

移出入品價額港別

品名	移入	移出
石炭	1,000,000	2,000,000
陶磁器	1,500,000	1,500,000
釘類	1,000,000	2,000,000
鉄線	1,500,000	1,500,000
絶縁材	1,000,000	2,000,000
木材	1,500,000	1,500,000
其他	1,000,000	2,000,000

品名	移入	移出
小麦粉	1,000,000	2,000,000
砂糖	1,500,000	1,500,000
生果	1,000,000	2,000,000
皮革	1,500,000	1,500,000
打綿	1,000,000	2,000,000
綿織物	1,500,000	1,500,000
毛織物	1,000,000	2,000,000
絹織物	1,500,000	1,500,000
人絹織物	1,000,000	2,000,000
スフ織物	1,500,000	1,500,000
漁網及漁物	1,000,000	2,000,000
洋傘	1,500,000	1,500,000
肌衣	1,000,000	2,000,000
帽子	1,500,000	1,500,000
洋靴	1,000,000	2,000,000
其他	1,500,000	1,500,000

神戶	名古屋	四日市	横濱	東京	新東	伏見	教王	下關	門司	博多	長崎	北九州	津	大阪	神戸	其他	合計
7,600,000	2,900,000	2,900,000	2,900,000	2,900,000	2,900,000	2,900,000	2,900,000	2,900,000	2,900,000	2,900,000	2,900,000	2,900,000	2,900,000	2,900,000	2,900,000	2,900,000	2,900,000
...

仕向地及仕出地

山	水	新	多	平	濱	元	清	津	山	津	基	津	其他	合計
...

移出入品價額仕向地及仕出地別

九月	十月	十一月	十二月	合計
...



朝鮮簡易生命保險事業概況 (七月)

逓信局

昭和十九年七月中の新契約(復活を含む) 三八三、一九〇件で消滅件数四七、二五八件である。而して月末現在契約高は八、二〇八、〇六三件、月額保険料八、八五〇、七四二、四圓、保険金額一、六八二、七〇一、三二四、一圓で之を前年同月に比較すると件数一、七五二、九三三件、月額保険料二、三三八、九八七、五圓、保険金額四二、〇二〇、五四〇、〇圓の増加である。尙本月末現在契約の人口千人當り件数割合は三一八件で前年同月に比較すると六二件の増加となつた。

道名	新契約	復活	死亡	満期	解約	失効	無効	月末現在契約	
								件数	金額
京畿道	1,500	1,200	100	50	200	100	100	1,500	1,500,000
忠清北道	1,200	1,000	80	40	150	80	100	1,200	1,200,000
忠清南道	1,100	900	70	35	140	75	90	1,100	1,100,000
全羅北道	1,000	800	60	30	130	65	80	1,000	1,000,000
全羅南道	900	700	50	25	120	55	70	900	900,000
江原道	800	600	40	20	110	45	60	800	800,000
慶尙北道	700	500	30	15	100	35	50	700	700,000
慶尙南道	600	400	20	10	90	25	40	600	600,000
慶尙東道	500	300	15	8	80	20	30	500	500,000
慶尙西道	400	200	10	6	70	15	20	400	400,000
黄海道	300	150	8	4	60	12	15	300	300,000
平安南道	200	100	5	3	50	8	10	200	200,000
平安北道	100	50	3	2	30	4	5	100	100,000

朝鮮關係重要雜誌記事調査 (昭和十九年十月分)

圖書館

項目	著者及編者	誌名	巻號	備考
學務局主管事務ノ概況ニ就テ	大野學務局長	朝鮮教育	二二四	
近畿の工場に敢闘する半島産業戦士を拜ねて	鈴木武雄	朝鮮組合	一八八	
大東亞經濟建設と朝鮮經濟	田村清	朝鮮財報	一五十六	
朝鮮臨時稅務措置令の改正に就て	日向十郎	朝鮮財報	二二一九	
綜合配給への一考察	日川汎	朝鮮財報	三五〇	
大同江の水路及水運	山口芳三	朝鮮財報	三五〇	
朝鮮地方の運輸交通	八木朝久	朝鮮財報	三五〇	
考古學より見たる古代内鮮關係(2)	橋本色次郎	朝鮮財報	三五〇	

項目	件数	金額	人口千人當り
成鏡南道	1,500	1,500,000	1,500
成鏡北道	1,200	1,200,000	1,200
その他	100	100,000	100
計	2,800	2,800,000	2,800
小兒保	100	100,000	100
險再掲	100	100,000	100

註一 其の他とあるは朝鮮外に轉居したる契約に對する件数なり

負操商と左社有社
大同江論
朝鮮における主要河川の化學的研究(豫報)
白頭山天池及び三池潭のプランクトン
朝鮮人の體表面積特に船務の體表面積に就て
京城で分離された *Salmonella Schachter* 菌に就て
鮮入鐵員事務上災害に因る骨折の統計的觀察
朝鮮に於けるミブモゼの栽培法
サントニンの含炭試験(第五報)
温突の衛生學的研究(無煙炭用袋口に就て)
無煙炭温突袋口の構造
朝鮮工業界概観
鐵工平南の造成
大同地城と工業地帯に就て
朝鮮農産斗肥料
本年米穀備出概況の概見
朝鮮の眞綿産案
朝鮮牛ニ於ケルケル包蟲症ニ關スル研究

菊地 謙 内 鮮 一 體 五九
田保 橋 澤 朝 水 學 雜誌 三五〇
倉茂 英 次 郎 陸 水 學 雜誌 一三四
山本 孝 治 陸 水 學 雜誌 一三四
川浪 敏 一 京城醫學專門學校紀要 一三九
安田 昌 平 鮮 滿 之 醫 水 四一五
穴 戸 直 功 勞 科 學 二一四
角 倉 一 等 朝鮮藥學會雜誌 二四一
櫻 田 有 展 朝鮮と建築 二三五
葛 西 重 男 朝鮮科學時代 二一〇
石 川 泰 三 朝鮮科學時代 二〇一
服部 伊 勢 松 朝 鮮 三三〇
山 岡 敏 介 朝 鮮 三五〇
大 河 原 四 郎 牛 島 の 光 八〇
中 川 柏 葉 葦 葉 之 朝 鮮 二一六
中 川 柏 葉 葦 葉 之 朝 鮮 二一六
一色 於 菴 四 郎 日 本 獸 醫 學 雜誌 六一三

主 要 日 誌 (自十一月一日起至三十日)

十一月一日
兵役法施行令外二勅令中改正の件公布さる(勅令第五百九十三號)
海軍特別志願兵の内地に於ける徵募検査に關する件公布さる(海軍省令第六十一號)
十一月二日
陸軍特別志願兵令中改正の件公布さる(勅令第五百九十四號)
陸軍防衛召集規則中改正の件公布さる(陸軍省令第四十六號)
十一月四日
金融統制團體令施行規則等中改正の件公布さる(府令第三百七十二號)
十一月七日
價格統制令施行規則中改正の件公布さる(府令第三百七十三號)
十一月十日
朝鮮總督府地方官々制等中改正の件公布さる(勅令第五百九十九號)
十一月十一日
臨時資金調整法に基く長期貯蓄の期限前拂戻等に関する件公布さる(府令第三百七十七號)
外國爲替管理法施行特別規則中改正の件公布さる(府令第三百七十八號)

十一月十三日
朝鮮土地改良令施行規則外三府令中改正の件公布さる(府令第三百七十九號)
十一月十四日
陸軍召集規則中改正の件公布さる(陸軍省令第四十九號)
十一月十五日
會社經理特別措置令公布さる(勅令第六百二十一號)
十一月十八日
臨時特殊損害保險法施行規則中改正の件公布さる(府令第三百八十六號)
十一月二十日
臨時災害保護法施行規則中改正の件公布さる(府令第三百八十七號)
十一月二十八日
朝鮮總督府地方官々制中改正の件公布さる(勅令第六百三十七號)
十一月三十日
軍用資源秘密保護法施行令中改正の件公布さる(勅令第五百九十八號)
朝鮮酒類業關連令施行規則中改正の件公布さる(府令第三百九十四號)

編輯後記

◇醜態神州に迫り、半島亦、破はせる。それから「戦ふ」それとして起上つた。皇國の危局今日より重大なるはない。此の決戦下、凡そ積極的使命をくして存在を許されるものはない。我が日報果してその使命を果してゐるであらうか？ 否、先づその使命を充分に自覚してゐるだらうか？ それをしてよりよくその任務を遂行せしめんが爲に我々は讀者諸君と共に絶えずかく問ひ返さねばならない。

◇一億のありとあらゆる條件が只一つ決戦力の強化に向けられてゐるとき、直接その施策に寄與するところあらんと

すると同時に、それに寄與せんが爲の研究にも亦費せんとする本誌は、半島に於ける社会科学的研究領域に於ける唯一の機関であつたのである。投資者並びに讀者諸君は今一度此の事を想起して戴き度い。

◇戦力増強を期して生産そのもののみを視るの段階は過去の昔に去つた。問題は既に物若くは經濟のそ

最高の綜合的組織に外ならない。かくて持久的戦力増強、施策乃至施策の爲の研究が、生産の前に先づ生産する人を見逃さないことを要請するだらう。

◇本誌の資料、農村人口移動調査報告は移動以前の生活諸條件の觀察から始められてゐる。深き分析と動向把握との爲に精々利用あらんことを望む。

昭和十九年十二月二十一日印刷
昭和十九年十二月二十五日發行

發行人 朝鮮總督府調査課長
發行所 朝鮮總督府
編輯所 朝鮮印刷株式會社
東京府西大門區墨江町三丁目六十二番地
電話 大島 〇二二〇〇番
一五五三三番
〇二二〇〇番
〇二二〇〇番

承認費香費(印)發第三號
發行部數 一〇〇部

定價金 册一三六
册一三六
册一三六
册一三六
册一三六
册一三六
册一三六
册一三六
册一三六
册一三六

昭和十九年八月九日號

調査・研究

朝鮮一農村の實態調査報告(完)
朝鮮に於ける女子未婚殘存率に關する統計的考察(二)

資料

一炭礦勞務事情概況
都市出産力結果報告第一表
公有水面埋立處分調(昭和十八年中)

主要日誌
編輯後記

昭和十九年十一月一號

調査・研究

朝鮮に於ける最近の通貨金融問題

資料

農村出産力調査結果報告 第一報
國民の直接稅負擔額表(昭和十七年度)
物品稅調(昭和十七年度)

主要日誌
編輯後記